MY FAVORITE DOLL BOOK

わたしのドールブック

ジェニー no.13

十二単と花嫁衣裳

"MY DOLL BOOK"
is here for you
to find joy of hand making.
You will find in the book,
real size patterns as well as
instructions for making dresses.
Let's make dresses for your dolls with
what fabrics you have with you.
The dolls which appear in the book
are JENNY and her friends.

加藤福代・加藤寿子作品

作り方説明と実物大型紙つき

著作権保護

© 日本ヴォーグ社 Heart Warming Life Series

「著作権保護コンテンツ」

おひな様には立派なものが多いけれど、
脱ぎ着できない十二単は、とっても残念です。
映画・演劇は楽しく古典を学べるけれど、
手触りや着付けは想像するだけで、物足りなさがあります。
花嫁衣裳は一生一度体験するかどうか、
ゆっくり味わう余裕があるかどうか…です。
布に触れ、色柄を選び、裁って縫い、着重ねも「着せ替え」で、
和装独特の難しい名前も少しずつ覚えて、
こころ豊かに遊びましょう。

CONTENTS

1衣冠束帯・縫腋袍(簡略バージョン)／3
2十二単(簡略バージョン)／3
3袿袴(簡略バージョン)／8
4衣冠束帯・闕腋袍(簡略バージョン)／8
5衣冠束帯・闕腋袍(上級バージョン)／9
6十二単(上級バージョン)／9
7狩衣+指貫／12
8直衣+指貫／13
9水干(静御前)／14
10水干(男の子・簡略バージョン)／15
11A能装束／16
日着流し／17
12A袴・太夫／18
日着物姿・二部式着物／19
13素襖+長袴／20
14袴(上)+長袴+貫頭目／21
15千早(巫女)／22
16紋付羽織・袴(花婿)／23
17色打ち掛け(花嫁)／24
18白無垢(花嫁)／27
読者情報／28・35　商品情報／30・31
おひな様(従)／34
出版情報／38　髪の結い方／40
作品の作り方／42
実物大型紙／63〜65・巻末一覧表83〜90
おひな様(主)／91

デザイン・着付け・原稿整理／加藤福代
ヘア／加藤寿子
スタイリング／今井　聡
カメラ／鈴木信雄
レイアウト／前川デザイン事務所
版下／高橋美和
編集協力／鈴木統子
編集担当／石坂文子

お嫁さん・半襦袢姿

清浄・高貴・神聖で特別な場合に着る白い下着。17色打ち掛け・18白無垢共通

着付け順／半襦袢(身頃裏なし・振り袖つき)＋足袋＋半衿＋裾除け(総裏つき)

着付け方／24・61ページ

作り方と型紙／巻末の一覧表(90ページ参照)

★この本の遊び方とご注意

この本では、着つけた全身のバランスの良さと、厳選した型紙の大活用とを最優先してあります。名称・形状・組合せは実際に基づくオリジナルです。説明や遊びの都合で事実と異なる場合もあります。配色・配役・シーンなど工夫してお楽しみください。

お人形は全て株タカラのジェニーと友達人形です。玩具店やデパートの玩具売場などで販売中ですが、すでに製造されていない商品も一部使用しました。

●表紙の人形／ジェニー　着物ジェニー　2ページの人形／着物ジェニー

●万一乱丁本・落丁本がありましたらお取り替え致します。
●本誌掲載の写真・イラスト・カット・記事の無断転載を禁じます。
●私的な範囲を越えて、本誌掲載作品を複製し販売することを禁じます。
●本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権）は株日本ヴォーグ社が保有します。

JCLS（株日本著作権出版管理システム委託出版物）
●本誌の無断複写は著作権法上での例外（私的な使用など）を除き禁じられています。
私的な範囲を越えて複写される場合は、そのつど事前に株日本著作出版権管理システム
（電話：03-3812-9424、e-mail：info@jcls.co.jp）の許諾を得てください。
●JCLS 登録No.2016

日本ヴォーグ社編集部へどうぞ。

「著作権保護コンテンツ」

映画・テレビも文学・コミックも一層興味深くなる、ジェニー達の日本服装史。

1 衣冠束帯・縫腋袍（正装の簡易バージョン）

お殿様・平安時代に完成した公家（文官）の正装・束帯の略装、衣冠。

2 十二単（正装の簡易バージョン）

ファッションドールのおひな様、ジェニーとフレンドドール達。
ドレスやジーンズも似合うけれど、伝統ある和装も大好きな、現代の雛と皆です。
1枚ずつ飾って楽しく、毎年飾の季節は、おひな様をお祝いしましょうよ！

単品と着付け◎十二単

「1枚作って着せる」を繰り返し、簡単な装から慣れましょう。それぞれに可愛さがあります。
私はパッチワーク用木綿を流用してみました。古典雅趣・お手頃価格・扱い易さが魅力です。
後ろ前は予めに着って、はぎ合わせの工夫を。本誌の裁尺は幅のある布は型紙を横向きに、無駄なく配置。

STEP 1 女下着(袴)(裏なし)+袴(裏なし)+女単(裏なし)姿

STEP 2 女下着小袖(裏なし)+袴(裏なし)+女単(裏なし)+袿(裏なし)姿

●ページ➡ 袿(裏なし)
4 ➡女袿(裏なし)を縫う。ピンク系の華やかな布を同色で通します。
作り方/○ページ
型紙/表4
5 ➡袴(十二単の表着・身頃は裏なし)を縫う。袴はバージョンを縫う。前後共に同色で柄木綿地を、裾裏地に濃色のキャンブリックを使用。
6 ➡ページ➡ 袿の後ろ裾を引き出すようにして縫った袿バージョンを作りやすく、着崩れやすいボリュームです。
7 ➡うちきを着るときに裾を整えることが重要できれいに着られます。
作り方/○ページ
型紙/表4
袿後ろ身頃
袿前
袴
袴後ろ身頃
袴前
袿後ろ身頃
袿前
袿後ろ身頃
袿前
袿後ろ身頃
袿

STEP 3
打衣（第1・第2・第5枚）＋五衣（第3・第4枚）の着せかけ

7 ←打衣の裏はしを縫う
キャンブリックなど鮮やかな色の無地木綿を用意。
作り方／47ページ右上
型紙／巻末❶ 60ページ

8 ←五衣に見せかけるように縫う
ため袖を前倒しし、袖口の縫い代をレイヤーカットします。裏地よりも少し小さめの無地プロードを用意。
作り方／40ページ左下
型紙／巻末❶

9 ←打衣の裏に五衣（見せかけ2枚）をつける。身頃は衿つけ側を、袖は袖つけ側をしっかりと縫いつけます。

10 ←五衣に見せかけて3枚かさねた打衣。表から見ると五衣と打衣の裏ロ着用。

11 ←五衣（見せかけ3枚）＋打衣を着て、重なりを調節。（五衣：表着袴＋表袴＋表袖＋表衿＋表身頃＋裏袖＋裏衿＋裏身頃

単品と着付け⊙衣冠束帯・縫腋袍

STEP 1
男下着(袴なし)+袴+男単(袴なし・縫腋バージョン)+表袴(縫のみ裏つき・縫腋バージョン)+下着(袴は裏なし)+石帯(長・裏つき)

作り方/48ページ上
型紙/裏D

4 ←下着(袴は裏なし・縫腋バージョン)と石帯(長・裏つき)を縫う。表は白キャンブリック。
木綿・裏は白キャンブリック。
作り方/49ページ上 型紙/裏❶ 49ページ

STEP 2
縫腋袍(裏なし・縫腋バージョン)+差貫(表+裏)+帖紙+笏+鞋

5 →縫腋袍に下着を通し、前に持ち上げます。袖テープ(後ろ)を結んで袖を決めます。

となみ分を整え、とんぼ掛を受け紐で留め、袖テープ(前)を結んで、裾線におさめます。

作り方/50ページ上
型紙/裏❸

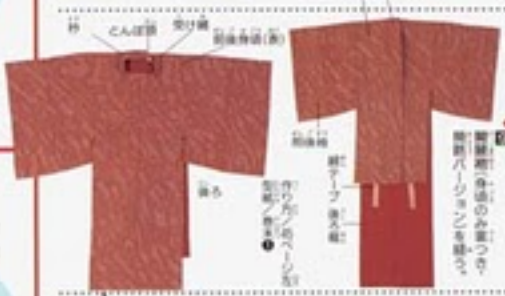
⊙衣冠束帯・闕腋袍

STEP 1
男下着(無地)(裏なし)+袴+闕腋袍(裏なし・無地バージョン)+表袴(裏なし・無地バージョン)+下袴(裏なし)

STEP 2
別袴・袍(前裾つき)+単(裏なし)+闕腋袍(後ろのみ裏つき・無地バージョン)

●ここでは衣冠束帯・闕腋袍と同じ。

STEP 3
装飾品



女の子は"公的・私的"の"私"の姿。男の子は"文官・武官"の"武"の袍(衣裳)姿です。

3 袿姿(簡易バージョン)

十二単の五衣・唐衣・裳を省略した袿姿

着付け例／女下重小袖(裏なし)＋袴(裏なし)＋女単(裏なし)＋袿(身頃は裏なし)＋袴

4 衣冠束帯・闕腋袍(簡易バージョン)

着付け例／男下重小袖(裏なし)＋袴(裏つき)＋表袴(身頃は裏なし)＋石帯(裏なし)＋袍(身頃は裏なし)＋袴＋石帯＋帯剣＋笏＋纓太刀＋帯＋靴

合わせ方と型紙／巻末の「着付けページ」参照

袿を表に着て、儀式的な装束はつけずに結髪で寛いだ、初々しいジェニーです。
髪量ねるほど布の厚みで動きにくく、結髪の方がラクなのは、今も昔も、ジェニーも同じ。
ジェフは武官の正装姿。纓は綾っていないし上着(闕腋袍)と裾が合って、弱もし気です。

こだわりと各組、何をどうするかは多様です。ここでは組組・装束を深めましょう。

6 十二単（上級バージョン）

3ページと同様で違った作り・全装のお組さま

着付け順／[1]下着用袴（裏なし）＋[2]肌単（裏なし）＋[3]打衣（裏なし）＋[4]袿（組裏つき）＋[5]表着（組裏つき）＋[6]唐衣（組裏つき）＋[7]裳（組裏つき）＋[8]領巾＋[9]扇子

作り方と組組／着装の「着装のポイント」

[1]下着用袴（裏なし）
[2]肌単（裏なし）
[3]打衣（裏なし）
[4]袿（組裏つき）
[5]表着（組裏つき）
[6]唐衣（組裏つき）
[7]裳（組裏つき）
[8]領巾
[9]扇子

おすべらかし

5 衣冠束帯・縫腋袍（上級バージョン）

3ページと同様で違った作り・全装のお組さま

着付け順／[1]下着用袴（裏なし）＋[2]肌単（裏なし）＋[3]袴（組裏つき）＋[4]下襲（＋袖口・組裏つき）＋[5]袍（組裏つき）＋[6]石帯（組裏つき）＋[7]石帯・平緒＋[8]笏（天冠）＋[9]袖口・袍＋[10]袴

作り方と組組／着装の「着装のポイント」

[1]下着用袴（裏なし）
[2]肌単（裏なし）
[3]袴（組裏つき）
[4]下襲（袖口・組裏つき）
[5]袍（組裏つき）
[6]石帯（組裏つき）
[7]石帯・平緒
[8]笏
[9]袖口・袍
[10]袴

組組バージョンで台座をつけた方や、最初から上級バージョンで作りたい方は、より高度な方法で作りましょう。
ここでは入手しやすく扱いやすい木綿で作りましたが、絹で美く仕上げれば、より豪華です。
下襲―ここでは下襲に裾が組いた状態（組組）で、袖枠と袖袋を縫いつけて袖（同じ着組める意）に見せかけたものを下襲と呼ぶ。

男石帯＋魚帯＝男びな(P91)
男平緒＋細太刀＝男びな(P91)
男下着筒袖＝1(P3)、13(P20)、14(P21)、16(P23)、男びな(P91)、随臣(P34)、五人囃子(P34)
女単＝官女(P34)
男単＝男びな(P91)
男下襲＝男びな(P91)
男垂纓冠＝男びな(P91)
男表袴＝男びな(P91)
男鞋＝男びな(P91)
男縫腋袍＝男びな(P91)
女袿＝官女(P34)

女下着筒袖2(P3)、11(P18)、女びな(P8)

女袴＝女びな(31ページ)

女打衣＋五衣＝女びな(P8)

女袴袴＝2(P3)
官女(34ページ)
女びな(P8)

女唐衣＝女びな(31ページ)

女檜扇

十二単の後ろ姿

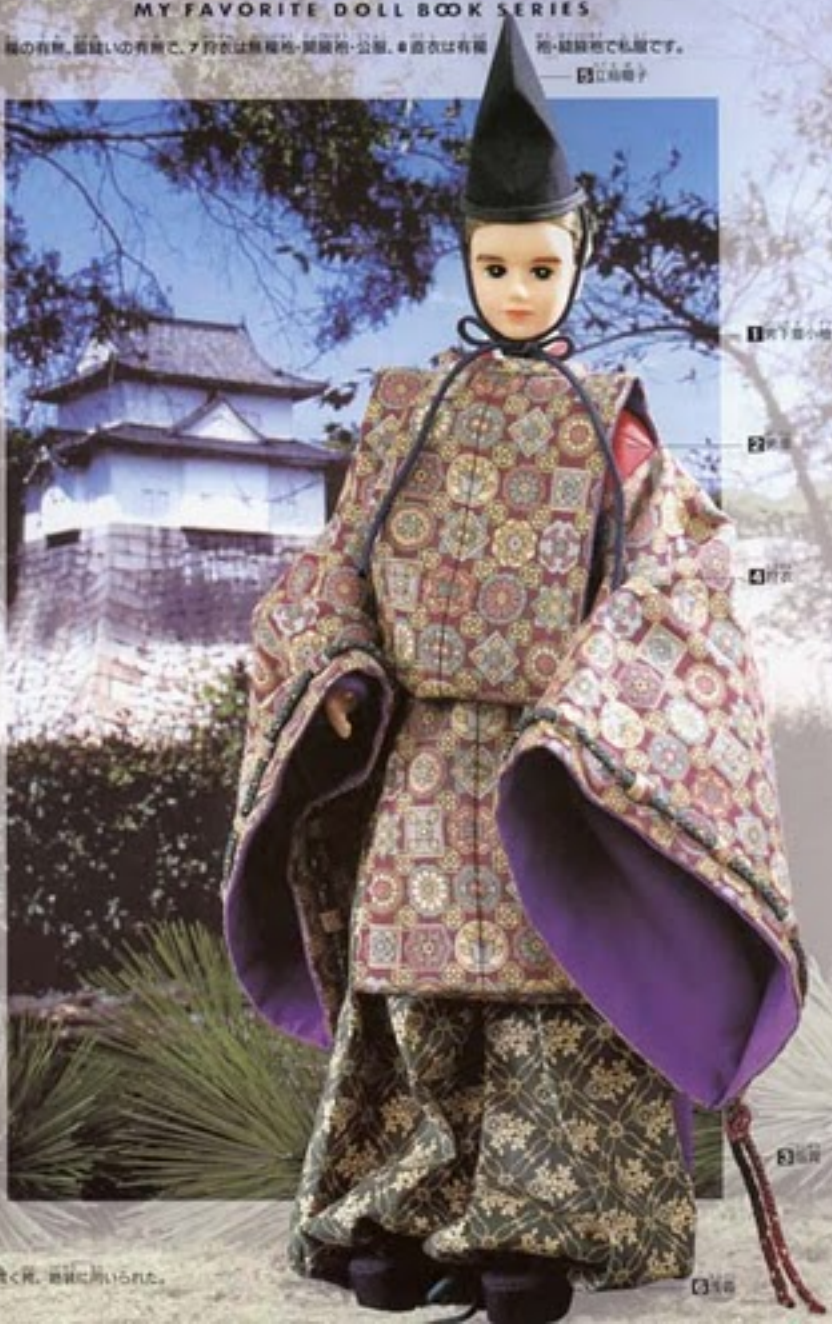
単品
⊙衣冠束帯・縫腋袍(上級バージョン)
⊙十二単(上級バージョン)

男女ペアーズ"を手に入れると大臣以外の装いが揃います。型紙・構成・着付け方は4ページ簡易版と同様で、材料選び、裏のつけかた、細部の作り方と細かいです。他のページと共通のものは、説明のあとに示します。

衣冠束帯・縫腋袍の後ろ姿

種の有無、髭袋いの有無で、7狩衣は無精袖・闕腋袍・公服、●直衣は有精　袍・縫腋袍で私服です。

7 狩衣（烏帽子つき）＋指貫（袴なし）



指貫　裾を紐で絞し長く袴。地位に関いられた。

単品と着付け◎狩衣

1 肌着と着小袖(裏なし)を着ます。
2 狩衣(ひとえ・裏なし)を着ます。
3 指貫(裏なし)を着ます。
4 狩衣(裏つき)を着ます。
5 冠
6 立烏帽子
7 袴
8 笏
白木鞘

◎直衣

1 直衣を着ます。
2 狩衣と同じです。
3 4 5 6 7と同じです。
8 直衣(裏なし)+指貫(裏なし)
表着だけを、狩衣から直衣に着替えるだけです。
天皇はじめ貴人の平常服。衣冠(上着に袍)に似ているが、色や文様の種類が自由な私服
着付け順/肌着+着小袖+着袴+指貫+直衣+立烏帽子+浅沓
作り方/巻末の一覧表ページ参照

※下は、縦縞柄・横縞柄・蒲合・刊百等柄の時使て、"御袋"の状況です。 "御袋"に当付けることもあります。

9 氷干（静御前・裏なし）＋張袴（静御前）

14 ●人形ージェニースタイル写真集 ※ソフビ製ボディはミスジェニーアジュットと共通

単品と着付け⊙水干（静御前）

⊙水干（男の子）

10 水干（男の子・裏なし・簡略バージョン）＋袴（裏なし）

袖元を折りうんと斜めに重ね合わせる、簡略した水干です。着付け順／男下着小袖（裏なし）＋単衣（裏なし）＋袖（裏なし）＋水干（裏なし）＋袴（裏なし）＋袖（裏なし）作り方／巻末の「着衣図」ページ参照

●人形＝トトコオリジナル　レイフ

約束事や制約によって表現が深められ、独自の洗練された様式が完成された、舞台衣装の世界。

11 A 能装束（長絹）

能装束を着けた衣装・竹雪姫一式が能装束。

着付け順／女下着胴帯＋足袋＋肌小袖（紐つき）＋着付（紐つき）＋帯＋腰帯＋長絹（紐付ちつき）＋天冠＋扇

作り方・着付け方／54ページ　型紙／巻末の「型紙ページ参照」

1 女下着胴帯（裏なし）
2 肌小袖（紐つき）
3 腰帯（紐つき）
4 長絹（紐付ちつき）
5 天冠
6 扇

能装束を身にまとったシオンは、天女の役のシテ（主役）です。長絹は女性が舞を舞う役で着る優雅な装束で、今でも歌舞伎や能、舞踊に使われます。女役の着る装束は色が美しい女性の決まりです。表着は肌着（袖）まで通しているのが多いのですが、唐織は袖に腕を通した小袖です。髪はセンターパートのストレート髪で、羽を着けた後ろ中央部の姿で紹介します。

単品と着付け⊙A能装束

目立たない位置で後ろ合せる。

11 B着流し

着物の上に帯をつけず、唐織等をつける着方。

着付け順／女下着類（裸足）＋足袋＋能小袖（能装うち）＋唐織（能装うち）＋腰帯
作り方と図版／巻末の「一覧表」ページ参照
着付け方／94ページ

●人形—倉敷シオン

着物は、上下に分けて作ることができます。　二部式着物：袖を2種に着付けます。

12 A袴（上）＋袴（天天）

●人形＝トートコオリジナル着物ジェニー（センターパート）
●着物生地／東玉・羽織（¥1,200～）、袴（¥1,800～）　お問い合わせ先 03-3831-3331　石田紡績
●着物の着付けの方法は『わたしのドールブック　ジェニーno.3 ゆかた』を参照。

単品と着付け◎A袴

◎B着物姿

12 B着物姿・二部式着物

小袖＋長袴に組み合わせて着る衣裳？種類　素襖と裃（上）で、風格ある姿を楽しみましょう。

—— 5作品番号

13 素襖＋長袴

室町の下級武士の平常着から江戸時代半ばの礼服になった袴の事

着付け順／[1]下着用帷子（裏なし）＋[2]肩衣小袖（裏つき）＋素襖（裏なし）＋[3]帷子（裏なし）＋[4]袴＋長袴（裏なし）＋特別帷子

作り方／巻末の二覧表[2]ページ参照

1 下着用帷子（裏なし）
2 肩衣帷小袖（裏つき）
3 素襖（裏なし）
4 袴 長袴（裏なし）

特別に用意した型紙と布地で仕立てた素襖のレイアウト。背面・ショート丈・袖幅すかさ合理で着やすくなっています。素襖と長袴は本来別々のものですが、ここでは同じ素材と柄のつながった衣裳に。素襖小袖は本来紙のビンズや、裃柄の木綿でありました。袖のある"らしさ"の表現を組み合わせると印象的です。

肩斗目…身頃の肩下位置に様一文字に織り柄の装飾を入れた肩小袖。長袴…裃着用時に引きするようにはいた。江戸時代、裃・長袴には肩斗目と規定され、袴の裾開きから織り柄をのぞかせた。

単品と着付け◎素襖

◎袴(上)

14 袴(上)+長袴+熨斗目

室町時代から袴と「袴」着用。江戸時代には武家の礼装に。

着付け順:1下着+2着せる小袖(裏はり)+3袴(上・裏はり)+4長袴(裏なし)
作り方/着せる小袖+着せる小袖(裏はり)+袴(上・裏はり)+長袴(裏なし)
→着付け方/着せる小袖+着せる小袖(裏はり)+袴(上・裏はり)+長袴(裏なし)作り

神楽を舞うなど、神道の祭祀に奉仕する役目の未婚の少女の服装。清浄さを象徴する白が主体です。

15 千早（ちはや）

平安時代中期からの続く衣服

着付け例（全体例）：袴（裏なし・地なし）＋足袋＋女小袖（裏なし・ひざ丈）＋袴（裏なし・地なし）＋足袋＋女小袖（裏なし・ひざ丈）＋千早（裏なし・地なし）＋足袋

1 千早（裏なし・地なし）

2 女小袖（裏なし・ひざ丈）

4 袴（裏なし・地なし）

3 袖（裏なし）

1 足袋

5 草履

◎千早

1 → 千早用衿（地なし・裏なし）を縫って衿用。足袋。

2 ＋女小袖（裏なし・短）を縫って衿用。帯を結ぶ。

衿

前身頃

衿（2枚入組地）

前身頃（裏なし・地なし）

後ろ身頃（裏なし・地なし）

衿（裏なし・地なし）

衿テープ

3 → 袴（裏なし）を縫う。袴を着用します。袴も袴用紐は蝶結び。正式には5回。

前身頃

後ろ身頃

袴ひも

袴テープ

4 千早（裏なし）を縫う。千早着用。ひもを蝶結び

後ろ

後ろ身頃

千早（裏なし）

前身頃

後ろ身頃

5 草履を作る。草履をはきます。

16 紋付羽織・袴［男雛］

17 色打ち掛け［女雛］

単品と着付け◎白無垢(花嫁)

8→懐紙・脱谷を作る。

9→打ち掛けに手を通して整え、懐紙と脱谷を懐に形よく入れます。紐(帯)をかぶり深さを調節します。髪を納めない時は上にティッシュを入れます。

7→白無垢打ち掛け(紐裏つき)を縫う。

8→綿帽子(紐裏つき)を縫う。

⊙色打ち掛け(花嫁)

1～**5**は白無垢と同様。**7**・**8**は同形で色違いです。

2→色打ち掛け(紐裏つき)を縫う。

3→角隠し(紐裏つき)を縫う。

9→懐紙・脱谷を縫う。

9→色打ち掛けに手を通して整え、懐紙と脱谷を懐に形よく入れます。角隠しに折り目をつけて前髪に当て、後ろで巻いて止めます。帯締をはき、扇を持ちます。

単品と着付け◎紋付羽織・袴

18 白無垢

おひな様（従）

おひな様（右）男びな・女びなは、前ページと逆転しています。

＊数字は着用順で番号にした作品番号です。

三人仕丁

雑役を行なう男性で、「舎人」「帯刀」などを持ちます。

着付け順／[1]男下着小袖19（裏なし）＋[2]男半袴19（裏なし）＋[3]水干19（裏なし）＋[4]（水干の）袴19（裏なし）＋[5]冠帽子7＋[6]草履19

作り方と配組／巻末の表四ページ参照

[1]男下着小袖19（裏なし）

[5]冠帽子7

頭に巾つける

[3]水干19（裏なし）

[4]（水干の）袴19（裏なし）

[2]男半袴19（裏なし）

[6]草履

三人官女

官女は宮中に仕える女性で、「銚子」「三方」「杯」などを持ちます。

着付け順／[1]女下着小袖9（裏なし）＋[2]袴9（総裏つき）＋[3]女半6（裏なし）＋女重袴3（裏なし）＋[4]女重袴3（裏なし）＋[5]袴6（総裏つき）＋[6]表着は裏なし）

作り方と配組／巻末の表四ページ参照

[1]女下着小袖（裏なし）

[3]女半6（裏なし）

[5]袴6（総裏つき）

[4]女重袴3（裏なし）

[2]袴9（総裏つき）

随臣

雑役のために供をする公卿の従官です。

着付け順／[1]男下着袴（裏なし）＋[2]男半袴7（裏なし）＋[3]袴1（身頃は裏なし）＋[4]袴4（総裏つき）＋[5]半袴4（裏なし・袴なし）＋[6]袴4（身頃のみ裏つき）＋[7]半袴・石帯・魚袋・纏太刀1＋[8]烏帽子4＋[9]冠4＋[10]沓4＋[11]袴

[9]巻纓冠4

[10]沓4

[1]男下着袴（裏なし）

[7]縄袴4（身頃のみ裏つき）

[2]男半7（裏なし）

[8]半袴・石帯・魚袋・纏太刀1

[4]下襲1（身頃は裏なし）

[6]半袴4（裏なし・袴なし）

[3]表袴1（袴のみ裏つき）

[11]袴

[5]袴4（総裏つき）

五人囃子

「笛吹き」「鼓」「大かわ」「小鼓」「こいこい」などと囃し方とよばれます。

着付け順／[1]男下着袴（裏なし）＋[2]男着袴小袖13（総裏つき）＋[3]袴13＋[4]表袴13（裏なし）＋[5]長袴13（裏なし）＋[6]烏帽子13

[6]烏帽子13

[1]男下着袴（裏なし）

[2]男着袴小袖（総裏つき）

[3]袴13

[4]表袴13（裏なし）

[5]長袴13（裏なし）

髪の結い方
P9 6 おすべらかし(十二単)

型紙／原寸 6

材料 髪と同色のボタンつけ糸（縫）、髪と同色のボール紙、髪と同色のスポンジ、当ピン、かんざし(おひなさま用親子、丈長、水引、ひも)、人形ーセンターパートでストレートロングヘアーの子

1. おすべらかしの型紙を作る。

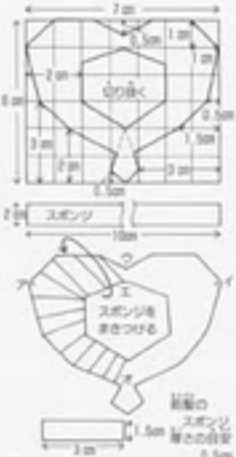
1 おすべらかしの型紙を右図のように作る。
（適当な厚さの紙がないときは同板か貼り合わせてもよい）

2 スポンジを作る。表面はデコボコでもかまわないが、厚さはできるだけ薄く作る。

3 型紙にスポンジを巻きつける。スポンジの中心をウ・エに合わせ左右各々巻きつけていく。スポンジは引っぱりながら、ゆるまないように、しっかり巻きつけ、先は糊にはさみこむ。

4 アイ各々に髪と同色の糸を通してひと結びしておく。（左右のピンがずれないようにとめるためのもの）

5 前髪を作るためのスポンジを作る。（図で使用）



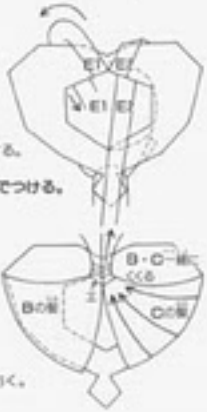
2. 全体を六つのブロックにわける

A・D　左右のピン
B・C　型紙になでつける
E・F　型紙を頭に固定する
　　Eは右1と右2の2つに分ける。
分けた髪はそれぞれ糸でくくっておく。

3. 型紙を頭に固定する

1 E1E2を型紙のウエに各々巻きつけて型紙を頭に固定する。
（ちょうど良い高さになるよう）正面から確認する

2 E1E2の残りの部分はオの上に出し、E1E2とFでオをはさむようにしてオの位置で糸をくくり、型紙ウとエの間を頭に当ピンで固定する。



4. BCの髪を各々左右の型紙になでつける。

1 Bをよくとかして、広げながら型紙にそわせて、型紙を包み込むようにうしろにまわし、糸でくくってエの位置にピンでとめる。残りの髪は額の方へ流しておく。

2 Cも同じようにとめる。左右バランスよく作る。

3 残りの髪はBCいっしょにくくっておく。

5. 左右のピンを作る。

1 Aを上にむかってとき上げ、型紙の上から後ろに流して、オでくくる。

2 Dも同じように作り、オでくくる。

3 アイにつけておいた糸を結び、結び目をウにピンで固定する。BCの残りの髪は、あらかじめむすび目より額側に出しておく。

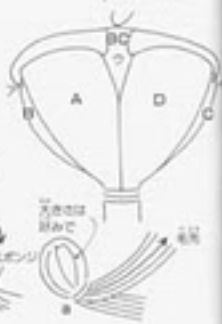
6. BCで前髪を作る。

1 BCをいっしょにして、前髪をとめつける位置でくくる。(a)

2 そこから1cm先をくくる。(b)

3 abの間に1で作っておいたスポンジを巻きつける。

4 スポンジを包むように髪をかぶせaでくくり、前髪を作る。



7. 前髪を当ピンで額にとめて立たせる。

1 左でつくった前髪のaを頭上の適当な位置にピンでとめる。

2 残りの髪はウから後ろに流し、オで全ての髪をまとめてくくる。

3 オでくくられた髪はよくとかし、丈長、水引を結ぶ位置を糸でくくる。前は白の丈長、2.5cm下を赤の丈長、さらに2.5cm下で金粉銀水引で結ぶ。
（丈長は2cm幅の紙を四つ折りにしたもの、水引は1cm幅の紙を四つ折りしたもので代用）

8. かんざし（親子）をつける

1 親子に紫色のひもをかけ、前髪の後ろで蝶結びにし、輪の部分が額にかかるように親子の下から出す。

＊オから先の髪はつけ毛で代用できます。

＊おすべらかしの型紙は、雑誌『日本の髪型』(雄鶏社刊)を参考に制作しました。

髪の結い方
P23 17 文金高島田(江戸)

型紙／巻末❻

材料 髪と同色のボタンつけ糸（縫）、髪と同色のボール紙、髪と同色のスポンジ、虫ピン、Uピン（針金）、かんざし
人形―センターパートでストレートロングヘアーの子

1. 前髪とタボの型紙を作る

1 前髪とタボの型紙を厚紙で作る。
2 前髪、タボ、ピン用のスポンジを作る。
表面はデコボコでも良いが、できるだけ薄く作る。
3 イウに折目を折りつけておいてもよい。
（中心で少し折り曲げると頭に固定しやすい。）
4 タボの型紙にスポンジを巻きつけておく。
（アエより下部のみ）

2. 全体を八つのブロックに分ける。

A1・A2 前髪 中央で二つに分ける
B・C 左右のピン 日本髪の前側
F・G・H タボ 日本髪の後ろ部分
D・E タボの型紙を固定し、土台を作る。
分けた髪は各々糸でくくっておく。

3. 前髪とタボの型紙をつける

1 前髪、スポンジ、型紙の順にかさね、ピンで固定する。
2 DEでタボの型紙の位置をきめ、型紙と髪（FGH）の間にピンのスポンジを差し込む。

4. DEで前髪と両ピンの土台を作る

1 Dを頭のつけ根上部で固定し、ピンの位置をきめる。ピンの下に髪とスポンジが残らないようにする。
2 Eも同じように作る。
左右の位置に気をつける。
3 残りの髪は頭上で交差させながら前髪、ピンの土台となるようにとめる。

A1・A2をくくる ピンで固定

5. 前髪を作る

1 折りたたんだスポンジにかぶせるように前髪を作り、二つめの結び目をピンで固定する（A1・A2）
2 前髪の残りの部分はA1・A2に分け、各々タボの型紙に巻きつける。スポンジはそのままにして型紙にのみ巻きつける。

6. タボを作る

1 Hを型にそわせてなでつけ、髪を包み込むようにくくり、ピンで固定する。
2 Fも同じように作る。
（FとHはどちらが先でもかまわない）

3 HFの残りの髪はピンや前髪のスキ間に折りたたんで入れ、ピンで固定する。
4 最後にGを下から上にさき上げ、マゲの根の位置にピンで固定。残りの髪は、マゲを作る時の根とする。

7. ピンを作る

1 Uピンをのばしてピンはりを作り、前髪の下を通して、左右に渡しておく。
＊ピンはりは、ふくらんだピンの形を整えるためのもの。（針金でもよい）
左右の両端を折り曲げておくとピンが抜れるのを防ぐことができる。
2 ピンはりにそわせてピンを作り、糸でくくって根にとめる。（B、C）
左右のバランスに気をつける。
3 後の髪を一つにまとめてしっかりと糸でくくる。

8. マゲを作る

1 毛先を糸でくくって、髪を二つに折り、折り口も糸でくくる。
毛先は根にくくり、髪の長さを半分にする。
2 根に文具をかけ、根を巻くする。
3 髪を前に折りまげ、後ろマゲを作る。
（スポンジを巻いたUピンをはさむと型が作りやすい）

4 折り口に糸をかけておく。
5 折り口を巻き込みながら、前マゲを作り、かけておいた糸で根にくくる。
（スポンジを一緒にまき込むと前マゲを立てる時に楽。）
6 前マゲをひろげ、形を整える。
7 好みのかんざしでかざりつける。

P.3 1 お出かけ用の[illegible]（袖なし）
P.9 5 お出かけ用の[illegible]（袖つき）

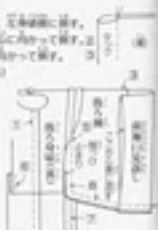
型紙／各1❶（袖なし各1枚共通）

1 [illegible]（袖なし）の材料

カラシ色広巾木綿 30cm幅×35cm
接着テープ 1cm幅×15cm
カラシ刺繍糸 5.5m
カラシ色スパンビーズ8号1個
伸縮 2.5cm×8cm

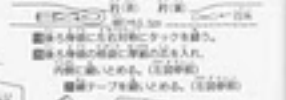
1 [illegible]（袖なし）のつくり方

1 身頃の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは、左身頃に倒す。
2 右身頃のタックを中表に折って縫う。縫いしろは中心に向かって倒す。2
3 左のタックも中表に折って縫う。縫いしろは中心に向かって倒す。3
4 右身頃のタックを折り、形よくする。(袖ぐりのみ)
5 身頃と袖を中表に合わせ、袖つけとおりで縫う。
6 身頃の後ろの縫い目を折り、形よくする。
7 右身頃の袖を中表に合わせて縫う。
縫いしろは開く。
8 身頃を中表に合わせ、脇と袖底は、続けて縫う。
左脇のように折る。縫い目を
右脇のように折る。縫下を縫う。
9 脇と袖底しを折り、袖底に倒す。
ボンドは、ゴロタック部分につける。
10 左身頃袖底に袖を中表に縫う。



11 左脇を参照
左脇底しで折り縫いをはじめるように折り、縫の縫先の脇と袖を縫う。表に返す。
12 左脇底しを脇に折り返す。
縫の縫底底にボンドをつけて脇に倒る。
13 左身頃と袖の袖底底しを脇に倒る。
左身頃はタックの部分にボンドをつける。

14 ぐりにおりぶんを入れ、袖を中表に縫う。
15 コピー紙（型の厚さ）で袖を折り、中表にする。
16 縫み代ぐりの縫いしろに接着ボンドで倒る。
17 袖幅を約3.5cm、後ろは左に合わせて整え、表にボンドで倒る。折った残は、カット。
18 袖の上表に右ビーズ（とんがり）、下表に中表に合った袖のも（折り縫）を口ボタンつけをで縫いとめる。



19 左身頃にも右袖にタックを折る。
20 左と身頃の袖底に袖底の左を入れ、
内側に縫いとめる。（左袖参照）
21 接着テープを縫いとめる。（左袖参照）

5 [illegible]（袖つき）の材料

表地ジャカード30cm幅×30cm
裏キャンブリック30cm×25cm
接着テープ1cm幅×15cm
接着ひも 5.5cm、長さを約2.5倍
伸縮 2.5cm×8cm

5 [illegible]（袖つき）のつくり方

1 のりづけアイロンで、とじ糸にして
表地、裏地、袖をおりやす。
2 身頃後ろ中心と脇、後ろの袖を
中表に合わせそれぞれを縫い合わせる。
縫いしろは、後身に向かって倒す。
3 表と裏の肩線を中表に合わせて縫う。
4 表に返し、肩線をアイロンで整える。
5 袖に袖底しに裏地を中表に合わせて縫う。
6 1 のりづけ(2)と同様にして4枚一緒に
縫下を縫う。（左袖参照）
7 身頃後ろ裏地の縫つけを中表に合わせて縫う。
縫いしろは開く。
8 表と裏のかぐりを中表に合わせ縫止めする。
9 1 のりづけ(3)～(5)を参照して作る。
ただし、袖底の脇は表に折り、裏かぐりにまつる。
10 袖に芯を入れる。（1 cmほど内側）
11 表と裏の袖身頃の縫を中表に合わせ縫止めする。
12 身頃の下裾を中表に合わせて縫う。
13 裾の表と裏地を中表に合わせ、
袖口一周縫、後ろ袖をそれぞれ縫う。
14 1 のとじ同様に裾の縫先を縫う。
15 表地を表に返し、裏裾の下裾を折ってまつる。
16 1 の袖底の同様にして仕上げる。

P3 **1** お足袋形・縫腰形の**下襲**（身頃は裏なし）＋**別袴**（組紐つき・長）
P8 **4** お足袋形・開腰形の**下襲**（1と同じ）＋**別袴**（組紐つき・短）
P9 **5** お足袋形・縫腰形の**下襲・綺袴**（組紐つき）＋**袖袴**＋**袖袴**
型紙／83ページ・各末❷（詳細は各末の表参照）

P3 **2** P9 **6** P16 **11** の**女下着前袖**
P3 **1** P8 **4** P9 **5** （裏なし）
P20 **14** P21 **14** P23 **16** の**男下着前袖**（#）
型紙／85ページ（詳細は各末の表参照）

1・4下襲の材料 表広帯木綿80cm幅×25cm
白キャンブリック（袴、袖、裾の裏）90cm幅×25cm
接着テープ1.5cm幅×35cm

＊衣服はボンドが表にしみないよう注意

1・4の下襲の作り方　身頃

1 袖の表と裏を中表に合わせ袖口を縫う。おめり分（裏布を0.2〜0.3cm）を出し、表に返す。
2 衿の図を参照、袖つけ側の縫いしろを0.5裏に折る。袖下を縫い、表に返す。
3 後ろ身頃の背中心を中表に合わせ縫う。縫いしろは左身頃に倒す。
4 前身頃のタックを縫う。縫いしろは中心側に倒す。5 身頃と表袖を中表に合わせ、袖のつけ止まりから袖つけ止まりまでを縫い合わせる。裏袖はよけておく。
6 衿の縫いしろを開き、上に裏袖の縫いしろをボンドで貼る。
7 袖のつけ止まりから下の縫いしろにボンドをつけ、表と裏の袖を貼り合わせる。
8 前後のすそを裏に折り、ボンドで貼る。脇も同様にして貼る。
9 前身頃と見返しを中表に折り、縫を縫う。表に返し、縫いしろをボンドで貼る。
10 衿の表と裏を中表に合わせ、外側を縫う。縫い同様あめり分を出して折る。
11 身頃→折ぐりに切り込みを入れ、表衿の内側を中表に合わせ、縫う。
12 裏衿の縫いしろを0.5cm折り、11の縫いしろにボンドで貼る。
13 後ろ身頃に左右対称にタックを縫う。

別袴（長）1（縫腰袴）の寸法　表12cm×4cm　裏12cm×50cm
1 表縫を中表におり、中表にタックを縫う。縫いしろは左に倒す。
2 裏縫に①を中表に合わせ両脇を縫う。表に返し、左右にあめり分0.2〜0.3cmぐらいように裏布を整え、アイロンで押える。
3 裾のすそ先の縫いしろを外と同様に折ってあめりを出す。ボンドで貼る。
4 裾の上端に左図の寸法にタックを折り、仮止めする。（縫い止める）
5 半幅に折った接着テープの間に挟をはさんで縫いとめる。ひもの先はボンドで貼る。

別袴（短）4（開腰袴）の寸法
表12cm×34cm　裏12cm×35cm
＊開腰袴に合わせ、丈が短い

5下襲（＋縫袴＋袖）衿・袖の材料
白綾ジャカード90cm幅×25cm
えんじ綿ブロード（裏）90cm幅×25cm
白綾テープ1cm幅×35cm
白キャンブリック（袴、衿、袖）
30cm×21cm

5下襲縫袴（袖衿、袖つき）の作り方

1 前後ろ身頃のすそに裾は続けて縫つ。
2 裏縫（12×48.5）を縫き、別縫と同様に上端をカットする。身頃後ろ裾に縫う。
3 1・4の3Bと同様に後ろ中心、前タックを縫う。
4 表と裏の身頃を中表に合わせ、前端一緒一緒、後ろ脇一緒の脇を縫う。表に返しあめりを整える。
5 裾の先はあめりを出して折り、目立たないようにまつる。
6 1・4の12と同様に袖を縫い、表に返す。
7 前身頃に表袖、裏身頃に裏袖を別々に、中表に合わせ縫う。縫いしろは開く。
8 袖のつけ止まりから下は表と裏をまつる。
9 表と裏のおくりを外表に合わせ仮止めし、切り込みを入れる。
10 1・4の18〜19を参考に衿を作って袖に縫う。外先と裏衿は目立たないようにまつりつける。
11 後ろ身頃のタックは、表と裏を一緒につまむ。半分に折った綾テープを縫う。
12 袖の袖下を縫い、輪にする。
13 袖と衿衿を外表に折る。縫いしろは内側に折り、縫い押える。
14 下襲の裾に袖衿と袖袖をまつる。

男女下着筒袖の材料 白木綿地　＊下襲小袖は46ページ参照
男35cm×25cm　女35cm×18cm

1 後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは左に倒す。
2 袖口を0.5cm裏に折り、縫い押える。
3 前後身頃を中表に合わせ、袖下一緒を縫う。
4 袖の先に切り込みを入れ、縫いしろは前身頃側に倒す。
5 前後身頃の裾を0.5cm裏に折り、縫い押える。
6 衿を外表に半分に折り、折り目をつける。
7 折ぐりに切り込みを入れ、衿を中表に合わせて縫う。
8 衿を袖の折り山から折る。7の縫い目の際に、裏から衿の端を縫い押さえる。
9 重ね衿を外表に3つ折りし、縫う。
10 衿を衿の裏にボンドで貼る。
丁寧に仕立てる時はまつりつける。

P3 1 衣装実例-組紐布の**袋袴**（裾のみ縫つき-のり貼り）
P8 4 衣装実例-組紐布の**袋袴**（1と同じ）
P9 5 衣装実例-組紐布の**袋袴**（裾のみ縫つき）
型紙／83ページ（詳細は巻末の表参照）

P8 4 衣装実例-組紐布の**半臂**（裏なし）
型紙／巻末❷（詳細は巻末の表P94参照）

1・4袋袴（身頃は裏なし-のり貼り）材料

白綿ピケ41cm幅×21cm
赤キャンブリック（裾裏）31cm幅×8cm
白綿テープ1cm幅×30cm

1・4の袋袴の作り方（身頃は裏なし-のり貼り）

＊表袴と裏袴同じ型紙

1 両脇と後ろ両の脇を中表に合わせて裾布止まりまで縫う。縫いしろは、開く。
2 裾布止まりより上の縫いしろはボンドで貼る。
3 前身頃続けてタックを縫う。縫いしろは下に倒す。
4 マチ布に表袴4枚を縫う。マチつけ位置で縫い止め、始めと終わりは返し縫いをする。
5 左右の前中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは開く。
6 左右の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは開く。
7 前の裾に裾裏を中表に合わせて縫う。
8 前身頃の股下を中表に合わせマチつけ位置の下から裾裏までを続けて縫う（右図参照）。
9 裾裏を0.2〜0.3cm（あめり分）表に出して裏に折り、③のタックにボンドをつけて貼る。
10 前の上端にタックをたたむ。ベルト布と中表に合わせ縫う。
11 ベルト布を中表に折る。両端を綿テープ15cmをはさんで縦い表に返す。
12 ベルト布の縫いしろを裏に折ってボンドで貼る。

＊5、6、8を縫うとき、マチ布を縫い込まないよう注意。マチ布の角の先をつくり出すように合わせ、縫い始めと終わりは、返し縫いをする。マチ布の縫いしろは時計に倒す。

5袴（身頃は裏なし-上紐）材料

白綿ジャカード41cm幅×25cm
赤キャンブリック（裾、脇、紐のひも）32cm×13cm
白綿テープ1cm幅×30cm

1 前の脇布を前身4ヶ所に裏布を中表に合わせ縫う。
2 縫い止まりに切り込みを入れ、あめり分を表に出して裏布を折る。裏布の端を0.5cm折り、両の裏にまつる。
3 前の前身の端を縫う。縫いしろは開く。
4 1・4の③と同様、タックを縫う。
5 1・4の4と同様、マチ布を縫う。
6 1・4の⑤〜⑧と同様、前身中心を縫う。
7 1・4の⑨〜⑫と同様、両の裾に裾布をつける。ただし、裾裏の上端は0.5cm裏に折り、タックの部分にまつる。
8 1・4の⑬〜⑭と同様
両の上端にベルト布をつける。ベルト布の端は裏にまつる。
9 紐ひもを作る。
②赤布と裏布を中表に合わせ、両端を縫う。
③を表に返し、左右にあめり分を出して折る。
④ひもの両先は、下袴の紐の先と同様（43ページ右）に右図を参照して折る。
10 ベルト布の右端に④の紐ひもを縫いとめる。
11 ベルト布に白ボタンつけ糸で紐りぬいをする（上図参照）。

4半臂（裏なし）の材料

黒キャンブリック55cm幅×25cm
接着テープ1cm幅×35cm

4半臂（裏なし）の作り方

1 後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは左身頃に倒す。
2 前身頃のタックを縫う。縫いしろは、中心側に倒す。
3 身頃の裾くりを3つ折りにして縫う。
4 前身の脇を中表に合わせて縫う。縫いしろは開く。
5 袖布を8cm幅×52cmに裁つ。
6 5の袖を3つ折りにして縫う。下図を参照してプリーツをたたみ、見返しを折って仮止めする。
7 身頃の袖に袖を縫う。表から押え縫い。
8 袖布を外表に折り、折り目をつける。
9 身頃の袖くりに切り込みを入れ、袖を縫う。
10 袖布を0.5折り、身頃の裏にボンドで貼る。
11 綿テープを後ろ中心の縫いしろに縫う。
12 袖丸袖の布を中表に合わせ、ぬいしろ0.5cmで返し口を残して3方を縫う。
13 表に返し図のように折って縫う。

P8 4 お出かけ用 **開襟衣**（身頃のみ裏つき）
型紙／原寸❶（詳細は各写真の表P94参照）

P13 8 **直衣**（身頃は裏なしの2枚のタイプ）
型紙／原寸❶（詳細は各写真の表P95参照）

材料 表裏色正絹木綿布70cm幅×50cm 表裏色キャンブリック70cm幅×75cm オレンジ色丸ビーズ6mm1個 白絹ひも5.5cm オレンジ色綿テープ 1.5cm幅×40cm

43ページ 縫開衣の作り方参照

1身頃の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは左身頃に倒す。
2前身頃のタックを折って縫う。縫いしろは中心側に倒す。
3袖のタックを折って縫う。縫いしろは、袖口側に倒す。
4身頃と袖を中表に合わせ、袖つけ止まりまで縫う。縫いしろは開く。
5袖口見返しを折り、縁下を縫う。42ページ1の図参照
6袖口見返しを、袖と外表に折り返し(3のタックにボンドで貼る。
7前後身頃(前タックなし)の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは左身頃に倒す。
8表と裏の前後身頃を中表に合わせる。後ろ脇→後ろ袖→後ろ脇、右前脇→前袖→前脇、左前脇→前袖→前脇と縫う。それぞれ袖つけ止まりで縫いとめる。
9衿を表に返し、アイロンで押える。
10衿つけ部分の縫いしろは、滝の縫いしろにボンドで貼る。
11表と裏の衿ぐりを外表に合わせて仮止めする。
12前に切り込みを入れ、衿と中表に合わせて縫う。
13縫い幅を3.5に揃えて折り、裏はボンドで貼る。
14袖の上前に丸ビーズ、下前に袖ひもを白ボタンつけ糸で縫いとめる。42ページ1の13参照。
15綿テープを半分に折り、両端をボンドで貼る。
16後ろ中心の縫い目に15を縫いとめる。

着付け 1袖の袖に手を通す。後ろにつけた綿テープを脇開きから前に出す。
2前身頃を合わせて衿をとめる。前の丈を決め、袖の上で綿テープを結ぶ。
3前身頃の裾を下に下げる。

材料 薄茶縞木綿地 90cm幅×35cm ブルー綿テープ1cm幅×70cm 白絹ひも5.5cm 白ひも玉結び 1個

42ページ 縫縫衣の作り方参照（袖と裾は1の縫開衣と全く同じ）

1身頃の後ろ中心、前タック、袖タックを縫う。42ページ1の①～③
2前身頃、脇タックを折り、袖を縫う。42ページ1の④⑤
3後ろ身頃の裾線を中表に折り、左右の脇を縫う。
4③を表に返す。図のように裾線が後ろ身頃表に出る。
5前後身頃の脇を縫う。
6裾下を縫い、袖先返しの脇をボンドで貼る。

当布共42ページ1の⑦⑧参照。
7前後身頃の袖に襠を縫う。42ページ1の⑨～⑪を参照し、襠を作る。
8衿ぐりに切り込みを入れ、衿と中表に合わせて縫う。
9衿幅を0.5に揃えて折り、裏にボンドで貼る。当布が厚地のときは、縫いしろは折らずに、切り込みを入れる。
10衿の上前に、玉結び、下前に紐ひもを縫いとめる。
11左前身頃に半分に折った綿テープ30cmを縫う。
12後ろ身頃(裏)にタックを中表に折る。半分に折った綿テープ40cmを上に重ね、脇から0.4cmのところを縫う。左右共、脇から1cmのところで縫いとめる。テープの両端はボンドで貼る。

着付け 1前合せを前に折り、袖に手を通す。
2後ろ衿を前に合わせて前の綿テープを前に回す。人形の腰(ヒップ)にしっかりと結ぶ。
3前身頃を下におろし前衿ぐりを後の衿ぐりに合わせ玉結びをとめる。
4前を合わせて前の綿テープを後ろに回す。テープを隠すため帯の下でしっかり結ぶ。

P3-8 **1**・**4** お出かけ用の**男単**(袖なし・ロングのタイプ)
P15 **10** 女下着のうちの**男単**(**1**の袖と共通)
P9 **5** お出かけ用・袖無しの**男単**(袖なし・ショートのタイプ)
P12 **7** 同右 P13 **8** 袖ありの**男単**(**5**の袖と共通)

型紙／表4 **A・B** (実物大原寸の表参照)

P3-8 **2**・**3** すそ・袖口のレースの**女単**(袖なし・ロングのタイプ)
P9 **6** すそ・袖口のレースの**女単**(袖なし・ショートのタイプ)
P9 **3** 付属の**女面料**(**2**の袖と型紙共通)で袖ありに仕立てる
P14 **9** ネクタイの**男単**(袖なし・袖ぬき用革を使用・ベストと重ね着可能)

型紙／表4 **A・B** (実物大原寸の表参照)

材料 布地80cm×90cm **1**、**4** エンジブロード **5** オレンジ色綿ジャカード **7**、**8** 綿サテン **10** 綿綿キャンブリック

5.7.8
1.4.10
わつ
3つ折り
ダーツ
ここにはうらの
返しぐちをかける
1.4.10
1.4.10
1.4.10

P3 **2** 十二単の**打衣**(裏なし)
P9 **6** 十二単の**打衣**(2と同じ)
P3 **2** 十二単の**五衣**(裏なし・見せかけの3枚重ね)
P9 **6** 十二単の**五衣**(裏なし・見せかけの5枚重ね)

型紙/巻末❹印ページ(詳細は巻末の表中図)

型紙/巻末❺(詳細は巻末の表中図)

打衣(裏なし)の材料 **2**柿色キャンブリック 85cm幅×30cm **6**濃赤色キャンブリック 85cm幅×30cm

■身頃の後ろ中心を中表に合わせて縫う。
袖しろは五身頃に倒す。
■身頃と袖と中表に合わせて縫つける縫う。
■前後身頃の脇を身八つ口開き止まりまで縫う。
■2、3の袖しろは開き、身八つ口部分のみ、身頃にボンドで貼る。
■前後の裾下を中表に合わせて縫い、縫しろは開く。
■袖口と袖付け止まりより下の縫しろは、ボンドで貼る。
■身頃の前端と裾の縫しろを裏に折り、ボンドで貼る。
裾角は直線に仕上げる。
■衿を外表に半分に折り、折り目をつける。
■身頃の衿ぐりに芯り込みを入れる。
衿の衿端を中表に合わせて縫う。
■衿の残った3辺の縫しろを裏に折る。
衿ぐりにボンドで貼る。
■後ろ身頃は1.3cmのタックを左右対称に縫う。

(48ページ 13参照)

6打衣の作り方要点

■後ろ中心の縫しろは折りふせ縫いにする。
■身八つ口、前端、袖つけ止まりより下の縫しろを0.5裏に3つ折りしてまつる。
■袖口は縫しろの端を3.5裏に折ってまつる。

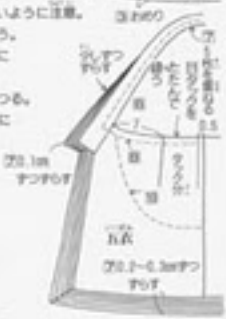
2五衣(3枚重ね)の材料 綿ブロード濃紫(第1)60cm×35cm、紫(第3)60cm×35cm、薄紫(第5)60cm×35cm

■裾の後ろ中心を中表に合わせて縫う。
縫しろは左図と同様に倒す。
■前端と裾の角落しを折り、ボンドで貼る。裾角は直線にする。
■裾の角先を裏に折って貼る。
■3を外表に折り、袖の形を作る。
■3の裾と裏衿裾を中表に合わせて縫う。
■裏衿裾の縫しろを裾のまにボンドで貼る。
■第5枚の裏のみ縫しろを裏に折って貼る。
■1、3、5の3枚を重ねる。衿は衿先で0.2すつ、裾は後ろ中心で0.5すつずらす。3枚一緒に縫う。
■裾の上側に3枚一緒にタックをたたみ、(左右対称に)縫いとめる。
■袖先を中表に合わせ、袖下を縫う。
縫しろは開いて倒にする。
■第1、3、5それぞれの袖口の折り目で外表に折る。
■第1と5の反対の縫いしろを裏に折る。
■袖を外表に合わせて貼る。
■第1と5の袖口の間に第3の袖を入れ、袖を均等に重ね、3枚一緒に縫う。

打衣に五衣を縫いとめる

6五衣(5枚重ね)の材料 綿キャンブリック濃赤(第1)2、薄(第3)実赤(第2、第3)白(第4、第5) 各60cm×50cm

■表裾の後ろ中心を中表に合わせて縫う。
縫しろは、五身頃側に倒す。
■裏裾に1を中表に合わせる。五右の裾端を縫い、裾を縫う。
■5ページの同様に、2を表に返し前端、裾にあめりを出す。
*衿のかさ張りを減らすため、各型紙の千鳥部分がくってあるので間違えないように注意。
■2五衣の一3一5と同様に衿を縫う。
■裏衿裾の縫いしろを、折り込まずに裾の裏に縫いとめる。
■第5枚のみ縫いしろを裏に折りまつる。
■第1～第5の5枚を2五衣と同様に重ねる。衿先で0.1すつ、裾の後ろ中心で0.2～0.3すつずらす。
■衿と裾上側を縫いとめる。
■第2、3、4の裾をくりの深い部分にそって縫いとめる。
■第1～第5裾をくりの浅い部分にそって縫いとめる。
■袖の上側にタックを縫う。
■袖は2五衣一19一14と同様に作る。第2、3、4袖の作り方は同じ。



P3 **2** 十二単の衣装（表着-身頃は裏なし）
P8 **3** 十二単の衣装（**2**と同じ）
P9 **6** 十二単の衣装（細帯つき）

型紙／巻末❶印3-64-65ページ（詳細は巻末の表参照）
型紙／巻末❶印1-65ページ（詳細は巻末の表参照）

2、3衽（身頃は裏なし）の材料

表着の花柄木綿地　64cm幅×30cm　肝子色キャンブリック（袖、衿、裾裏）　45cm幅×33cm

袖
袖
衿
衿
裾
裾
身頃
身頃
衽
衽
衽
衽
前
後ろ
後ろ
前
後ろ
前
後ろ
前

P3 2 十二単の着物(裏なしベロのおりタイプ)
P8 3 十二単の着物(2と同じ)
P9 6 十二単の着物(裏なしベロつきタイプ)
型紙/巻末❶(詳細は巻末の表参照)

P3 2 十二単の袴(裏なし)
P9 6 十二単の袴(裏つき)
型紙/巻末❶(巻末表参照)

P3 2 十二単の唐衣(身頃は裏なし)
P9 6 十二単の唐衣(裏つき)
型紙/巻末❶64ページ(巻末表参照)

着物2・3の材料 エンジブロード70cm×35cm(1枚分) 6エンジ綿サテン70cm×35cm エンジ綿テープ 2.3.6各1cm幅×30cm

1身頃の脇を中表に合わせ、脇あき止まりまで縫う。脇の縫いしろを開き、続けて縫開き口を折る。

2 6のみ袖の開き口を3つ折りしてまつる。2.3はそのまま、ウエストタックに進ねる。

3 ウマクの後ろダーツを縫う。

4 ウマクと前身頃の裾脇を中表に合わせて縫う。右は●印で縫い止め、返し縫いをする。

5 ウマク後ろ脇に後ろ裾脇を中表に合わせて縫う。●印で縫い止め、返し縫いをする。

6 前中心を中表に合わせて縫う。●印で縫い止め、返し縫いをする。縫いしろは開く。

7 後ろ中心を左と同様に●印まで縫う。

8 ウエストにタックをたたむ(前後逆うのに注意)。

9 ベルト布を外表に折り、折り目をつける。

10 前のウエストにベルト布の端を中表に合わせ縫う。

11 ベルト布の両端を中表に折り、間に15cmの綿テープをはさんで縫う。表に返す。

12 2・3はベルト布の裏側を裏に折って目の細いしろに貼る(6はまつり縫い)。

13 袖を折り線から裏に折り、ボンドで貼る(6は袖を0.5裏に折り込んでまつる)。

14 裾つもを中表に折り、返し口を残して縫う。表に返し、返し口をまつる。

15 3の先にエンジししゅう糸またはボタン付け糸で飾り縫いをする。表に糸を1の中型に出し、糸を1針すつ縫う(右図参照)。

16 3の飾りもをひと結びして、ベルト布の前、右脇に結める。

着物2(裏なし)の材料 ブルー系細ロ ーンのハンカチ(袋・大襟)40cm×40cm テロリアンテープ1.7cm幅×135cm ブルー綿テープ1cm幅×30cm 袋布6cm×3cm ししゅう糸3色各20cm

1 ハンカチを33×32に切る(3辺の縫縁いを利用し、長辺を半分、短辺だけ2つ折りを合わせる)。

2 左の袖幅を前幅だたみにして8等分する。山と谷を交互に縫から1mのところを縫う。

3 2の上前にタックをたたむ(右図参照)。

4 袋布を取った大襟を左に中表に合わせて縫う。

5 テロリアンテープ3cmを大襟の表側に縫う。

6 左を中表に折り、間にテロリアンテープ3cm綿テープ15cmをはさんで両端を縫う。

7 6を表に返し、裏に縫いしろを折ってボンドで貼る。

8 テロリアンテープでリボンを作り、ししゅう糸を縫る。

着物6(総裏つき)の材料 並ラメ入織地ハンカチ(袋・大襟・引廻)40cm×40cm、白薄地(袖)33cm×33cm、接着芯6cm×8cm、テロリアンテープ1.8cm幅×79cm、薄紫綿テープ1cm幅×30cm、黄色木綿地(小襟)2cm×27cm、濃ピンク(小襟)2.5幅×27cm、ボタンつけ糸6色

1 ハンカチを袋布、大襟、引廻に裁つ。

2 袖の表と裏を袖口を合わせて中表に重ねる。

3 2の袖口脇と裾つけ脇を裾つけ部分を残して縫う。

4 3を表に返し、中表に合わせて、袖下を縫う。

5 裏の縫いしろを表の縫いしろでくるみ、裏袖を縫う。

6 身頃と袖を中表に合わせ裾つけを縫う。縫いしろは開く。

7 裏袖の縫いしろは袖に貼る。

8 外の外前と裾の縫いしろを裏に折り、ボンドで貼る。

9 8の衿を中表に合わせ、後ろ中心を縫う。縫いしろは開き、ボンドで貼る。その余分な縫いしろは、カットする。

10 身頃と見返しの縫いしろに切り込みを入れる。

11 身頃の上に衿を重ね、見返しを中表に合わせて、衿ぐり→前端→前端を縫う。

12 衿を表に返し、縫い伸える。

13 前後身頃の裾と裾の縫いしろを貼る。

14 後ろ身頃にタックをたたむ。

着物6(総裏つき)の材料 黄色木綿31×30cm 濃ピンク綿ジャカード(裏袖、衿)30×10cm、ピンク木綿(外・身頃裏)65×11cm

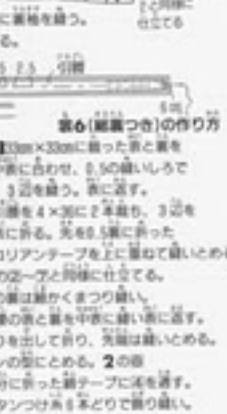
1 衿の表と裏を中表に合わせて縫う。衿先の縫いしろは折り込みまつる。

2 身頃に1の衿を縫う。

3 身頃の表と裏を中表に合わせ、前端→裾、後ろ端→裾を縫う。

4 3を表に返し、表身頃に前端、裏身頃に裏袖を縫う。

5 裏身頃のめぐり→前端を裏に折りまつる。



着物6(総裏つき)の作り方

1 13cm×33cmに縫った表と裏を中表に合わせ、0.5の縫いしろで3辺を縫う。表に返す。

2 1の縫を4×36に2本縫む、3辺を外表に折る。先を0.5裏に折ったテロリアンテープを上に重ねて縫いとめる。

3 2の2~7と同様に仕立てる。大襟の裾は縫かくまつり縫い。

4 小襟の表と裏を中表に縫い表に返す。おめりを出して折り、先端は縫いとめる。リボンの型にとめる。2の後

5 半分に折った綿テープに通を通す。

6 ボタンつけ糸3本どりで飾り縫い。

P3・9 **2・6** 十二単の**檜扇**　檜扇の型紙／飾木❻右
P8 **3** 束帯の**檜扇**
1・4・5・8 男の**檜扇**　**帖紙**(大小)　帖紙の型紙／なし
P3・8・9 **1・4・5・8** 衣冠束帯の**笏**　笏の型紙／83ページ中上

P3 **1** P9 **5**　**縫腋袍**の飾付け
P15 **10** P18 **12** P20 **13**
P20 **14** P15 **15** P23 **16** **袍**の飾付け

材料　厚紙10cm×10cm 千代紙(白革扇のチラシ柄)適宜、金厚紙少々、
金アクリル絵の具、ボタンつけ糸(赤、白、ピンク、紫、黄、緑)、飾結みひも、木綿地(赤、ピンク)各適宜

檜扇(女)の作り方

1花扇りを作る**2・6**

①木綿地を3×3cmに裁ち、外表に4辺を折る。②1辺を1折ずつ縫い、糸を結ぶ。③4つ角を1折ずつ縫い、糸を裏に出して引く。④玉止め。⑤飾みひもの中央を結び、糸をほどく。⑥3色(赤2、薄ピンク1、ピンク1)を結ぶ。

⑦ボタンつけ糸6色100cmを半分に折り、三つ編みしたものを⑥にとめる。

2扇を作る。
②厚紙で6個を残すだけ扇を切る。
③⑥の表に千代紙を貼る。金厚紙の中央から左右に、1枚ずつ重ねてはるを繰り返す。
④厚紙の縁(切り口)と扇に金を塗る。
⑤扇を開閉させるときは上扇に穴を開け、下扇にも3ピンを入れる小穴を開ける。

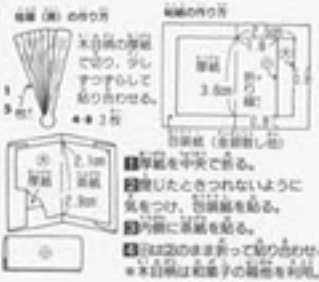
扇を作り、その扇をAのある方にひねり、Aを通す。その繰り返し。

檜扇(男)の作り方

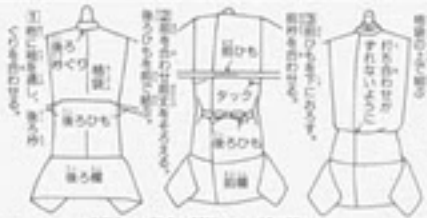
1厚紙を3枚貼り合わせる。

2・1・4・8
木目の厚紙を濃い表と裏に木目を出す。扇をベージュに塗る。

3・5
表と裏、縁全体をアクリル絵の具で黒色に塗り、つや出し剤を塗る。



1厚紙を中央で折る。
2開いたときつれないように気をつけ、包飾紙を貼る。
3内側に厚紙を貼る。
4②と③のまま折って貼り合わせる。
＊木目は帖紙下の扇地を利用。


後ろ袴
後ろ袴
後ろ袴

P3 1 P9 5 **簡単冠**
P8 4 **簡単冠+飾**
P21 14 P8 4 P9 5 **飾**
型紙／93ページ上-巻末❶

P12 7 **衿衣の浴衣**
P13 8 **着衣の浴衣**（アと同じ）
P8 4 P9 5 **平結+羽根+飾帯**
P8 4 P9 5 P15 9 **組太刀**
型紙／84ページ左上
型紙／93ページ上-巻末❶

簡単冠・巻簡単冠の材料
黒オーガンジーリボン（2cm幅×25cm
黒ハードチュール0.5cm幅×12.5cm
黒ピン1本、黒紙ゴム8cm
厚紙、黒フェルト各11cm×4.5cm

簡単冠・巻簡単冠の作り方
1 厚紙上部を2に軽く紙を貼る。
2 1と前面を形でくるむ。カーブに切り込みを入れ、裏にボンドで貼る。
3 側面の厚紙と形を重ねる。Vの所から裏に形を引き出し、切り込みを入れて厚紙に貼る。Vの先を切り込みすぎない。
※縫いしるを手めにつけて縫ち、形を引き出した後、0.3〜0.5にカットする。
4 側面全体に上面に合わせたカーブをつける。
5 側面の後ろ中心、○と前面○を□の字に交互に形をねたして縫い合わせる。
6 上面と側面の裏側にフェルトを貼る。
7 ラ子の中に紙をきっちりと詰める。
8 Uピンを開いて5cmの長さに折る。
9 前面の下縫いしるにボンドをつけ髪が左右同じに出るように差し入れて貼る。
10 側面の内側上部と5子の下にボンドをつけ、上面をしっかり差し込んで貼る。
11 側面にゴムを通し、内側で結ぶ。
12 飾を作る。ハードチュールを1.2cm幅に3つ折りする。オーガンジーリボンを半分に折り、チュールを間にはさんで折りを巻き縫いする。
13 12の下側0.8cmを糸で巻いて縫く、近の後ろ中心下側に巻き縫いでとめる。
14 巻縫冠は12を巻き、巻く塗ったクリップ（くつ下に付いている）で押える。
15 紐を作る。黒紐ひも0.4cm幅×4cmを2本用意する。黒の紐ひも40cmをはさんでしっかりと巻きとめ、先をほどいてアイロンでくせを伸ばす。
16 白い紐ひも40cmを前で交差させて人形にかぶせる。巻縫冠は黒色の紐ひもに重ねて白紐ひもを掛ける。

浴衣の材料
黒木綿地13cm×8cm　厚紙12cm×6cm、白紙10cm×8cm、白木綿地3.5cm×4cm、黒フェルト4cm×2cm

浴衣の作り方
1 前面にフェルトを貼り、形でくるむ。
2 側面と底を形でくるみ、裏にひと回り小さく切った白紙を貼る。
3 側面にカーブをつけ、後ろ中心を縫い合わせる。（巻縫冠参照）
4 側面の上下に、前面と底を縫う。
5 白木綿地を上図のように折り、前面から0.3cm出して裏に貼る。

4平結等の材料
刺しゅうテープ1.7cm幅×13cm、飾テープ1cm幅×35cm、黒合成皮革10cm×6cm、金合成皮革4cm×1cmスパンコール直径0.7×8個、金飾りビーズ5個、厚紙1.5cm×5cm

4平結等の材料
刺しゅうテープ1.8cm幅×13cm、金ひも0.3cm幅×25cm、黒コード0.5cm幅×10cm、紅白紐ひも30cm、黒合成皮革10cm×4cm、銀、ハト目穴、アクセサリー金具は上図参照、飾テープ、スパンコール、厚紙は4と同じ

4・5・9組太刀の作り方
材料 厚紙20cm×8cm、レースペーパー少々、アクリル絵の具（金、銀、黒、赤、白）、紐ひも（赤、白、緑）適宜
1 厚紙を指定の枚数だけ切り、貼り合わせる。（刺3枚、本体3枚、柄、鍔各2枚）
2 サンドペーパーをかけ全体に丸味をつける。
3 絵の具を塗る。
4 レースペーパーの飾りを切り取り、貼る。
5 キリで穴を開ける。
6 金銀を混の上に塗る。艾全体に散らして質感感を出す。
7 ひも飾りをつける。

袴の材料
黒木綿地12cm×13cm、白木綿地13cm×7cm、黒フェルト8cm×8cm、黒色合テープ0.5cm幅×30cm、金ひも飾りリング直径0.5cm各4個、紐紐ひも18cm、紐紐4cm×10cm、ボタンつけ糸2色少々、厚紙12cm×10cm

袴の作り方
1 袴、側面Aを形でくるむ。側面ダーツは巻縫冠3を参照してくるみ、縫い合わせる。
2 1の底と側面の裏にフェルトを貼る。（側面ダーツなし）
3 前中心と後ろ中心を縫い合わせる。（巻縫冠参照）
4 前掛りの厚紙の表と裏は形を貼る。下図は必ずに取り、周囲は縫り切り、厚紙の縫（厚み部分）を裏く塗る。
5 3の前中心の縫い目に合わせ、活を縫いとめる。（2の部分に糸を通す）
6 側面Bを形でくるみ、裏に厚紙を貼る。
7 サイドのベルト掛りを2縫作る。（左図）
8 側面の下縫にボンドをつけ紐を貼る。
9 6を袴の中に入れ、前後を合わせて貼る。
10 紐紐ひもを側面Aの上縫に貼る。後ろ中心で止める。
11 2色のボタンつけ糸を3の上に貼り、後ろで結ぶ。糸先は内側に貼る。（1・4赤、黄、5緑、黄）
12 7のベルトを2本すつ組んで側面に掛る。

P12 **7** 狩衣（組紐つき）
型紙／巻末❶64ページ（巻末の表記ページ参照）

P12 **7** 狩衣の**立烏帽子**（黒ブロード）
P13 **8** 直衣の**立烏帽子**（黒綿織地）
P14 **9** 狩衣の**立烏帽子**（金ラメ）
型紙／巻末❶

P12 **7** 狩衣の**指貫**（裏なし）
P13 **8** 直衣の**指貫**（**7** と同じ）
型紙／巻末❷83ページ（巻末の表記ページ参照）

狩衣の材料 エンジ系木綿80cm幅×35cm
紫色キャンブリック（裏）60cm幅×30cm
黄×緑の変入組ひも 0.3cm幅×90cm

❶前身頃の中央前に、衽を中表に合わせて縫う。縫いしろは、衽側に倒す。
❷後身頃と裾袖を縫う。縫いしろは開く。
❸袖を中表に折りタックを縫う。縫いしろは、袖口側に倒す。
❹袖口のタグを作る。1.5cm×2.5cmを外表に3つ折りし、ボンドで貼る。（2枚）
❺袖口にタグを通す穴をあける。ほつれやすい布の場合は先に裏にボンドを塗っておく。
❻袖に袖のタグを入れ、裏に縫いしろ分を貼る。
❼表のタグを押して平らにする。袖にタグの裏を貼る。
❽表袖と裏袖を中表に合わせて、袖口と、袖つけ部分以外の袖つけ側を縫う。
❾右図を参照して袖下を縫う。袖つけ部分から表に返す。
❿前後身頃の表と裏を中表に合わせ、袖つけ部分と袖くり部分を残して縫う。表に返し、形を整える。
⓫表身頃と表袖の袖つけ部分を縫う。
⓬表身頃の袖つけ部分の縫いしろを袖側に倒す。裏地の袖つけ部分の縫いしろを0.5cm折り、その上にまつる。
⓭表と裏の身頃の袖くりを合わせて仮止めし、切り込みを入れる。
⓮に衿を中表に合わせて縫い、衿端を0.5cmに縫えて折る。裏身頃に衿端を折ってまつり縫いをする。
⓯1.5cm×8cmを外表に4つ折りし、ボンドで止め、半分に切り、とん通しと受け緒を作る。
⓰を袖くりにとめつける。

42ページ袴裾袖参照
❶裾ひも3.5cm×35cmを中表に合わせ、返し口を中央に残して3辺を縫う。
❷ひもを表に返す。芯（2.5×8）の紙を半分に折った時を中に入れ、返し口をまつる。
❸組ひも45cmを袖口のタグに通し、後ろ袖のひもで、組ひもをひと結びする。

単の作り方は48ページ 男単に掲載
下着の作り方は48ページ 男下着小袖に掲載

指貫の材料 緑色系木綿50cm×35cm、緑色綿テープ1cm幅×30cm
緑色組ひも60cm ＊**指貫は、前後、左右、同じ型紙使用**

❶裾を折り、表目の通ったひだを外表に折る。
❷ひだを中表に折る。（2本つり）
＊ここでプリーツをしっかりアイロンで押える。
❸脇発き止まりに切り込みを入れ脇縫をする。右図参照。②の縫で外表に折り袋を裏に returns。ひとつを一緒に表裏の脇に倒す。折山の端を、縫かくまつり縫い。
❹椎マチの4辺に、前後、左右4枚の裾のマチつけ位置を中表に合わせて縫う。始めと終わりは必ず縫いとめる。
❺前中心を中表に合わせて縫う。
❻後ろ中心を中表に合わせて縫う。
当座縫マチを縫い込まないよう注意。縫いしろは開く。
❼1辺につけた折り目のとおりにひだを折る。
❽下で縫製されから出たひだをさらに裏に折り込み、仮止めする。
❾ベルト布を外表に半分に折る。
❿前のウエストに後の片方を中表に合わせて縫う。
⓫ベルト布の両端を中表に折り綿テープ15cmをはさんで縫う。
⓬ベルト布を表に返す。裏でベルトの端を折ってまつる。
⓭前後の脇を中表に合わせて縫う。縫いしろは開く。
⓮前後の裾下をひも通し口を残して縫う。縫いしろは、開く。
⓯裾の縫を折り縫から裏に折る。裾から1cm縫で縫い押える。
⓰に30cmの組ひもを通す。

立烏帽子の材料
7 黒綿ブロード15cm×7cm、黒コード0.4cm幅×13cm、組紐ひも40cm、厚紙11cm×5cm
8 黒綿織地、黒コード、黒色組ひも 厚紙、各用**7**に同じ
9 金ラメ地、黒コード、黒組ひも 厚紙、各用**7**に同じ

立烏帽子の作り方
❶型に切った厚紙の前側、山み部分にペーパーナイフ等で筋を入れる。（後で折り込みやすくするため）
❷布のカーブの所に切り込みを入れ、裏面に①の厚紙を重ねる。
❸厚紙の裏面にボンドをつけ②の縫いしろを貼る。左右同様に作る。
❹③の下にひもを通す穴を開ける。
❺前面の左右を外表に合わせ、脇を表に糸が見えないように縫いとめる。
❻コードを平らにつぶす（中にひもが入っている時は抜き取る）。
❼⑤の下端に④を巻き前端を後ろ側の端に折り込んで貼る。
組中央もすれないように1ヶ所貼る。
❽組ひも20cmを④の穴に通し、裏で結ぶ。

P16 ↓↓ 短袖着の■■■（袖つき）　型紙／表4 ●A 4ページ（着方の別ページ参照）
P16 ↓↓ 短袖着の■小袖（袖つき）　型紙／表4 ●●B 4ページ（図解は着方の別ページ参照）
P16 ↓↓ 短袖着の■■■　型紙／なし
P16 ↓↓ 短袖着の■■■（袖なしつき）　型紙／表4 ●C 4ページ（図解は着方の別ページ参照）

着物の材料 正八等身 30cm×
15cm 方眼地（麻）25cm×45cm
袖なし着物（つき）の材料 40cm×8cm

■着物の後ろ中心を中表に合わせて縫う。
縫いしろは、左側に倒す。
■着物と衿を中表に合わせて縫う。
縫いしろは、衿側に倒す。
■衿にC 2cm×1cmの芯を中表に合わせ、端をよまつりで縫い、表に返す。
■着物表地と衿を中表に合わせて縫い、縫いしろを開く。
■着物裏地を中表に合わせ、
裾を縫つけよまつりで
縫う、縫いしろは開く。
■袖を中表に合わせ、袖下を縫う。袖のループに切り込みを入れ表に返す。
■着物の裾に袖表地を中表に合わせ、袖口一枚一枚縫い合う。
■衿を表に返し、衿あきのかどにする。
■着物表地の後ろ中心と袖を縫う。
縫いしろは、着物表に倒す。
■袖裏の上側に袖表地を中表に合わせて縫う、縫いしろは下側に倒す。
■袖の表と裏を中表に合わせ、
1.2cm縫う、表に返す。
■表と裏の脇ぐりを中表に合わせ、ひだ込みを入れる。
■袖に衿表地を中表に合わせ縫う。
■着物の裾いしろを折り、裾にまつる。
■着物表の袖つけ側の縫いしろを折って表の袖いしろに重ね合いする。

袖小袖（裾つき）の材料 ベージュ麻地
30cm×40cm 方眼地（麻）30cm×
30cm ベージュ綿テープ1cm幅×40cm

■着物の後ろ中心を中表に合わせて縫う。
縫いしろは左側に倒す。
■着物の後ろ中心を中表に合わせて縫う。
縫いしろは左側に倒す。
■着物の袖つけ口テープを同様に仕立てる。
■着物の袖つけ口テープを同様に仕立てる。
縫いしろは、上側に倒す。
■表と裏の衿ぐりを合わせ、仕立てる。
■袖口のひだ込みを入れ、衿と中表に合わせて縫う。
■袖丸1cmにぬる。袖丸を折り、縫にまつる。
■着物表の袖つけ側の縫いしろを折って表の袖いしろに重ね合いする。
■テープ20cmを左着物の裾下と左袖先から4cm重ねに縫う。

着物の材料 方眼地（麻）15cm×
1.5cm幅×50cm

■5cmと15cmに切る。
■5cmの両端を0.5幅に折ってボンドで留める。
■2と15cmそれぞれを半分に二つ折りし、ボンドで留める。
■1cmの下端とリボンを折り、30cmの下ではさみとめる。

長袖（裾直しつき）の作り方
■着物の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは左側に倒す。
■袖のタックを縫い、袖口に倒す。オレンジ衿用つきひも70cm、紐0.7cm
■12cm×6cmにオーガンジーを重つ、上の角を2等分にたかけ、折つけ位置を残してほつの縫いしろで縫う。
■12cm×30cmにオーガンジーを重ねる。袖と中表に合わせ、返し口を残してほつの縫いしろで縫う。
■3cmを表に返し、衿あきのかどにする。
■着物表と袖を中表に合わせ、折つけ位置をほつの縫いしろで縫う。縫いしろは開く。
■袖下を縫う（下図参照）。

■表とオーガンジーを外表に合わせ折ぐりを縫はかし、ひだ込みを入れる。
■表に衿を中表に合わせて縫う。
■折つけよまつりひだ込みを入れる。衿幅0.8cmにする。
■衿端を折り、裏にまつる。
■着物表に袖を0.5幅に折ってまつり縫いをする。
■表に衿つけ側を0.5幅に折ってまつり縫いする。
＊ほとほは着物とオーガンジーを1枚のように考える。1.5折った左側は表の着方合わせの折りになる。
■着物と共に衿つけのひもを折りとめる。
■ひもの下に結びを通し、ひと結びする。
■着物のタックのかどに衿当を折り、結びを折りとめる。

女下着用袖の材料と作り方は、43ページ参照
足袋の材料 白コットン、13cm×4cm **作り方は59ページ参照**

P22 15 左女の千早(裏なし)
P22 15 左女の女小袖(身頃は裏なし)
P22 15 左女の半襟袢(袖なし・裏なし)
型紙／巻末❽-64・65ページ(解説は巻末87ページ参照)
型紙／巻末❾❿-65ページ(詳細は巻末87ページ参照)
型紙／巻末❶(詳細は巻末87ページ参照)
P22 15 左女の袴(裏なし)
型紙／巻末❼-63ページ(解説は巻末86ページ参照)
P22 15 左女の帯 型紙なし

千早(裏なし)の材料 白(化繊薄地)70cm幅×75cm
ピンク紐ひも80cm

1 身頃の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは左身頃に倒す。
2 袖のタックを縫い、縫いしろは袖口側に倒す。
3 身頃と袖を中表に合わせ袖つけ位置を縫う。縫いしろは開く。
4 袖を中表に合わせ袖下を縫う。(下図参照)
5 身頃の衿ぐりに切り込みを入れ、衿を中表に合わせて縫う。
6 衿つけ止まりに切り込みを入れる。衿端を1cmに折る。
7 衿端を裏に折って衿ぐりにまつる。
8 身頃の裾、前端、裾を3つ折りしてまつる。
9 袖口と袖つけ側を3つ折りしてまつる。
10 身頃と衿に紐ひもを縫りとめる。

小袖の材料 白縮ビク55cm×25cm
白綿サテン(衿) 23cm×5cm

1 身頃の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは左身頃に倒す。
2 前身頃のタックを縫い、衿側に倒す。
3 袖口口布(綿サテン3cm×8cm2枚)を袖口に中表に合わせ、袋状に縫う。
4 口布を1cm表に出して裏に折り、袖裏にまつる。
5 身頃と袖を中表に合わせて縫い、縫いしろは開く。
6 前身頃を中表に合わせて、脇を縫う。衿つけ止まりまで縫い、縫いしろを開く。
7 衿を中表に合わせ、袖下を縫う。カーブに切り込みを入れ表に返す。
8 身頃を縫い目線で中表に折り、左右の前端を縫う。
9 衿を表に返し、上端を千鳥がけで身頃に縫う。
10 衿ぐりに切り込みを入れ、衿を縫う。
11 衿端を1cmに折り、袋の裏に縫いとめる。
12 重ね衿(綿サテン)を3つ折りして、衿の裏に縫いとめる。

半襟袢(裏なし・裏なし)の材料 白木綿34cm
×10cm 白綿テープ1.5cm幅×35cm
インサイドベルト0.3mm×10cm

1 後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは左身頃に倒す。
2 前端～脇～後ろ裾の縫いしろを裏に折り、縫い押える。
3 衿ぐりに切り込みを入れ、衿と中表に合わせて縫う。
4 衿端を1cmに折る。後ろ衿の縫いしろに切り込みを入れ、3の縫い目の際を縫い押える。
5 インサイドベルトの両端を丸くカットし衿に入れる。
6 半分に折った綿テープを後ろ身頃に縫いとめる。

袴の材料 白綾ブロード50cm幅×30cm
＊詳しい作り方は87ページの袴参照

1 前袴、後ろ袴にひだを折る。
2 腰板、袋を折り、自立たないようにまつる。
3 前と後ろの袴の腰を中表に合わせて縫う。縫いしろは開く。
4 袴の裾を裾折り線から裏に折り、袋を千鳥がけで縫いとめる。
5 霧吹アイロンでひだをしっかり押える。ひだは左右対称ではないのでご確認する。
6 前後袴のマチつけ位置に股下マチを中表に合わせ、1辺ずつ縫い合わせる。
7 後の縫いしろは袴側に倒す。
8 前中心を中表に合わせて縫う。マチを縫い込まないよう注意。
9 後ろ中心も前と同様に縫う。
10 前、後ろの股下を中表に合わせて縫う。マチを縫い込まないように注意する。
11 袋の縫いしろは右は後ろ袴側に、左は前袴側に片倒しし、重ならないようにする。
12 腰ひも(前1cm幅×45cm、後ろ3cm幅×35cm)を中表に折り、返し口(袴と縫い合わせる部分、中央5～6cm)を残して縫う。
13 12を表に返す。
14 袴の上前と13を中表に合わせて縫う。
15 袴の縫を1cmに折り、裏にまつる(前後同様)
16 白ボタンかけ糸で腰の縫いをする。

帯の材料 白木綿地4cm×45cm
インサイドベルト(帯板) 1.4cm×5cm

1 帯を中表に合わせ、返し口を残して縫う。
2 表に返し中に帯板を入れる。返し口を表から自立たないようにまつる。

P15 10 男の子・P23 16 近衛の華麗・優美(男)
P18 12 太夫 P22 15 左女の華麗(男女)型紙／巻末❺

材料 生成(ベージュ)木綿地5cm×8cm 表(ピンク、白、生成)綿ブロード3cm×5cm 針金(人形の種別材) 直径0.2cm×12cm 合成皮革・厚紙各4cm×4cm

1 袋の周囲に0.5cm縫いしろをつけて布をバイアスに裁つ。切り込みを入れる。
2 厚紙を3つ折りにし、縫いしろを裏に折る。
3 ブロードを1×3.5(4.5)に裁ち、針金に巻く。
4 両端をとめ、針金を中央で折る。
5 3の先から出たビニールを切り取る。
6 ブロードを0.7×3.5を3つ折りして巻く。
7 2の先に穴を開ける。5の端に針金を入れ、穴に通し裏に結ぶ。
8 4の針金の両先を2の両側、布と厚紙の間に差し入れ、裏に折る。
9 合成皮革の底とかかとを裏に結ぶ。

P20 13 表布の特殊縫い

型紙／表布❻

材料 表布A 22cm×30cm、表布B 40cm×18cm

*表の縫製では、小物に縫製を生かすために左図のとおりにする。13cmを残縫い（未仕上）に設定している。

■身頃の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは左身頃に倒す。
■前端のタックを縫い、裾に倒す。
■袖と裾の始末を中表に合わせて輪に縫う。
■袖口と裾を中表に合わせ、袖つけ位置を縫う。縫いしろは開く。
■袖を下図を参照して作り、袖下を表裏とも一緒に縫う。

■カーブに切り込みを入れ、表に返す。
■前身頃を中表に合わせ、袖を袖つけまわりで縫う。縫いしろは左身頃側に倒す。
■身頃を裾の線で中表に合わせ、左右の脇線を縫い、表に返す。

■身頃の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは、左身頃に倒す。
■身頃の脇を中表に合わせて縫う。縫いしろは、開く。
■前の上前に後の袖を中表に合わせて縫う。縫いしろは身頃側に倒す。
■身頃と裾の身頃を中表に重ねる。折くせをつけるように、ひっぱり合うように縫う。
■図Cを中表に合わせて縫う。
■袖を下にかぶせ、上前を表に返す。
■袖を1cmに折り、裾にまつる。ひもを通す。
■身頃の裾つけ位置に裏地をまつる。

P20 13 表布の別素材小袖（応用つき）

型紙／表布❻

材料 表布フロート20cm×8cm、表フェルト11cm×4cm、帯紙（片面が黒い）10cm×1cm、裏地3cm、組紐10cm

■袖口の帯紙を、ひと回り大きく残った方でくるみ、折りしろを裏に伏る。
■上前、後ろ下前をバイアスに折った方でくるむ。前上前の袖口のくるみ込みを入れ、両方を通してあわせる。
■前端の後ろ中心を中表に合わせて縫いしろを割って倒す。
■下の裾にフェルトの裏打ちを伏る。
■後ろ下前を折り線で折り、フェルトの裏打ちを伏る。
■前上前の裾に裏打用の帯紙を伏る。
■前端の下前に後ろ下前を伏る。
■後ろ上前のひもと前上前にボンドを塗り、前上前を伏る。
■前に帯を作り、前上前に作った細ひもを前の下から下に出し、左右の袖口の下から外に出す。■組ひもを前端の下に通し、内側で結びとめる。

P21 14 表布の別素材小袖（重ね）

型紙／表布❼（P○ページ詳細は着物の着方P○ページ参照）

材料 表布フロート35cm×35cm、裏地木綿60cm×30cm

■身頃、袖、衿の表と裏は0.5cm控えいしろを出えて布を裁ち、表布で表に合わせて縫う。
■下の袖はいしろを開き、前端の身頃、袖、衿と同様に縫う。
■後ろ中心と前タックを13の寸法と同様に縫う。
■袖口に口布（フロート3cm×8cm）を中表に合わせて縫う。縫い止まりに切り込みを入れて表に返す。
■身頃と袖を中表に合わせて縫う。縫いしろは開く。
■裾を中表に合わせて縫う。カーブに切り込みを入れて表に返す。
■13の寸法と同様に裏と裾線を縫う。
■中ぐりに切り込みを入れ、袖を中表に合わせて縫う。
■袖幅を1cmに折る。袖裏を表に折ってボンドで伏る。
■袖に衿を中表にかぶせる。
■裾の上前を伏る。
■紐を作り（P○ページ）、右身頃、後ろ身頃中央、後ろ袖口ヨック所に伏る。

P20 13 表裏（重ね）

型紙／表布❽（P○ページ裏布P○ページ参照）

材料 表裏綿布75cm×35cm、表裏スエード2cm×12cm

■後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは左身頃に倒す。
■前のタックを縫い、裾に倒す。
■身頃と袖を中表に合わせ、折つけ位置を縫う。縫いしろは開く。
■袖を中表に合わせ、袖下を縫う。袖下の縫いしろは前袖側に倒し、折りしろ縫い（右下図参照）。
■中ぐりに切り込みを入れ、袖を中表に合わせて縫う。
■袖幅を1cmに折る。袖裏を表に折って袖口にまつる。
■袖口と裾つけ線を3つ折り、縫いまつる。
■身頃裾の裏と袖を3つ折りして縫いまつる。
■スエードを2.5cmと2cmと4cmに切る。
■前身頃と袖口に5mmのスエードを縫いとめる。
■1cmのスエードを衿芯を挟んで作り、前身頃、後ろ袖につける。

P20 **13** 女用の**長襦袢**(袖つき・裏なし)
P21 **14** 补・長袴・祭斗目の**長襦袢**(裏なし)
补・長袴・祭斗目の**袖**
型紙／巻末❷❸(3ページ(巻末表紙)ページ参照)

P21 **14** 补・長袴・祭斗目の**袴**(裏なし)
P18 **12** 大夫の**袴**(裏打ちつき)
型紙／巻末❹(詳細は巻末の表紙・86ページ参照)

13長襦袢の材料 薄紙地80cm×35cm、合革スエード0.8cm×3cm、厚紙1.5cm×4cm、クリップ小1個

■衿にひだ山(谷)の線をヘラでつける。衿に合わせてひだを折りアイロンでしっかりと折り目をつける。裾折り線から下はアイロンをかけない。
*袖の中央ひだが脇下で互い違いに折り重なるため、左右の中央ひだの山と谷が逆になっている。
■袖の袖幅き止まりに切り込みを入れ、袖山を作る。袖の縫いしろは、裏にボンドで貼る。
■後ろ袖の袖幅き止まりに切り込みを入れ、袖山を作る。
■袖山後の線を中表に合わせ、袖幅き止まりまでを縫う。縫いしろは開く。
■袖下の裾から下を裏に折り、袖を下端がけで縫いとめる。
■ひだを折り、アイロンで押さえる。袖の折りしろ巾も一緒に折る。
*この時、左右を合わせて間違いのないように確認する。
■袖マチの4辺に前左右・後ろ左右の袖のマチつけ位置を中表に合わせて縫う。縫い始めと終わりは必ず返し縫いをする。
■前の前中心を中表に合わせて縫う。
■後ろの後ろ中心を中表に合わせて縫う。
*3、頭とも縫いしろはひだと一緒に片倒しする。
■袖山後の脇下を中表に合わせて縫う。縫いしろは、右は後ろ袖、左は前袖側に片倒しする。
■袖山後袖の上前のひだを整え、仮止めする。
■前ひも2.5cm×56cm、後ろひも2.5cm×30cmを外表に4つ折りする。
■襟衿と後ろ袖の上前を中表に合わせて縫う。厚紙の芯を中に入れる。芯にボンドを塗り襟衿の裏を貼る。
■襟衿の縫いしろを折り、ボンドで貼る。
■襟衿を外表に折り、後をまつる。
■3の後ろひもを0.5cm幅に縫う。
■ひもをクリップに通し、襟衿の裏につける。
■袖の上前に前ひもを中表に合わせて縫う。端を0.8に折りひもの部分も縫ってまつり縫いをする。
■襟衿きのところに裏衿と同じ合革スエードの飾りを縫いとめる(13)。

袖を折り上げてから折り目をつける
後ろ中心
前中心
袖幅
袖山
袖幅き止まり
袖山(表)
袖山(裏)
にごりを入れる
にごりを入れる
後ろ袖(表)
後ろ袖(裏)
切り込みの半分を折る
前袖(表)
前袖(裏)
にごりを入れる
にごりを入れる
袖マチ
袖マチ
袖マチ

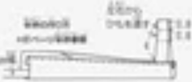
P18 12 太夫の[illegible]
P18 12 太夫の[illegible]
P18 12 太夫の[illegible]
P18 12 太夫の[illegible]
P18 12 太夫の[illegible]
P18 12 太夫の[illegible]
P18 12 太夫の[illegible]
その他

[illegible]の材料 [illegible]
※詳しい作り方は[illegible]ページ[illegible]参照
[illegible]

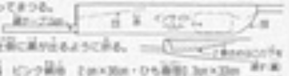
[illegible]の材料 [illegible] クリップ小 1個
[illegible]

[illegible]の材料 オレンジ色[illegible]
[illegible]グログランリボン [illegible]
[illegible]

[illegible]の材料 [illegible]
ピンクサテンリボン [illegible]
×45cm・インサイドベルト [illegible]



[illegible]の材料 [illegible]テープ [illegible]
×17cm・インサイドベルト [illegible]
[illegible]



[illegible]の材料 ピンク[illegible]
[illegible]の材料 [illegible]
[illegible]の材料 ピンク[illegible]
ピンクマジックテープ[illegible]
※[illegible]の作り方は[illegible]ページ

[illegible]の材料 クリーム[illegible]
※詳しい作り方は[illegible]ページ[illegible]参照
[illegible]

[illegible]の材料 [illegible]
※[illegible]の詳しい作り方は[illegible]ページ
[illegible]の材料 [illegible]テープ [illegible]
※[illegible]の詳しい作り方は[illegible]ページ
[illegible]の材料と作り方は[illegible]ページ参照
[illegible]の材料と作り方は[illegible]ページ参照

P23 16 花嫁の**胴着物**(身頃裏なし)
型紙／着方❼❽85ページ
P23 16 花嫁の**袴**(裏なし) 型紙／着方❼❽85ページ
P23 16 花嫁の**裃** P20 13 P21 14 型紙なし

P23 16 花嫁の**羽織**(袖のみ裏なし) 型紙／着方❽

胴着物(身頃は裏なし)の材料 表地縞 身頃裏・袖裏(裏なし)の場合 50cm×35cm 白綿紗(重ね衿) 3.5cm×23cm 黒ブロード(紐)少々

1 身頃の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは左身頃に倒す。
2 前身頃のタックを縫い、処理に倒す。
3 袖口に口布(3cm×8cm)を中表に合わせて縫う。角止まりに切り込みを入れる。表に0.1cm出して、口布を裏に折り、脇をまつり縫いをする。
4 身頃と袖を、中表に合わせ、袖つけ位置を縫う。縫いしろは袖側に倒す。
5 身頃の前後ろを中表に合わせ、袖つけ止まりまで縫う。縫いしろは後ろ身頃に倒す。
6 衿を中表に合わせ、衿下を縫う。カーブに切り込みを入れ表に返す。
7 衿裏の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは左側に倒す。
8 身頃の裾に芯を中表に合わせ、衿芯を参照して縫う。
9 芯に0.1〜0.2cmして衿を裏に返し、衿裏の上端を身頃に千鳥がけで縫いとめる。
10 衿ぐりに切り込みを入れ、衿と中表に合わせて縫う。衿幅を1cmに折り、脇を裏に折ってまつる。
11 袖口布を3つ折りにして縫い、重ねの所にとめつける。
12 ブロードで紐を作る。(57ページ右下参照) 前身頃、後ろ身頃中央、後ろ襟の5ヶ所に結ぶ。

袴(裏なし)の作り方

材料 表×グレーの縞綿縞地 50cm×31cm
芯地 5cm×4cm・クリップ小1個

×57ページ参考図

- 上が短くなる以外すべて**13**と同様に仕立てる。
- すべてのひだ山に縦縞が通るように注意してひだを折る。
- ひもは横縞になるように裁つ。

帯の作り方

材料 チロリアンテープ1 2cm幅×50cm
チロリアンテープ2 0.5幅に折りボンドで貼る。→
芯は縞柄。

13・14はグログランリボン1.5cm幅×50cmで作る。

下着の材料と作り方は40ページ参照

羽織の材料 表地縞45cm×30cm 袖口布3cm×9cm 裏地(羽織裏)25cm×13cm 白紙ひも縞85cm 黒ブロード少々 ひも止め金具2個 3ピン1本

羽織(総裏つき)の作り方

1 身頃の後ろ中心を中表に合わせて、縫う。縫いしろは左身頃に倒す。
2 裏身頃の後ろ中心を工と同様に縫う。
3 袖口に口布(3cm×8cm)を中表に合わせて縫い、裏地と同様に縫う。
4 身頃と袖を中表に合わせ、袖つけ位置を縫う。縫いしろは袖側に倒す。
5 身頃と裏身頃を中表に合わせ、前端と前裾、後ろ裾と後ろ裾を縫う。縫いしろは、裏身頃側に倒す。
6 脇マチを中表に合わせ袖を縫う。表に返し、両脇を仮止めする。
7 後ろ身頃と裏後ろ身頃を中表に合わせ、間に衿をはさんで、後ろ襟を縫う。
8 脇マチの残りの脇を、前身頃と裏前身頃ではさんで縫う。
9 前裾の縫い縮を中表に合わせて縫い、身頃を表に返す。
10 衿ぐりに切り込みを入れ、衿を中表に合わせて縫う。
11 衿幅を1.3cmに折る。衿脇を裏に折り、突まつりをする。

12 3ピンの先を丸めて、左衿の端にとめる。
13 ひもを半分に折り、2巻きして結び、引き抜いた方の先を輪にする。残りの2本は、先に金具をつけて右衿の端にとめる。
14 黒ブロードで紐を作り、前身頃、後ろ身頃中央、後ろ襟の5ヶ所に結ぶ。

男1・4・5・16
女11・12・15・17・18 **道袋・襦** 型紙／着方❻

材料 白木綿地 女15cm×7cm・男15cm×9cm・白ニット12cm×4cm

1 木綿地ではバイアスに裁つ。(ニットは後ろ中心縦地に裁つ)
2 上端を0.5裏に折って、伸ばしぎみに縫う。前中心出来上がり線のところで返し縫いをする。
3 中表に合わせて前中心〜底を縫う。
4 縫いしろを0.3cmにカットしてカーブに切り込みを入れる。表に返す。

P23 **17** 花嫁の色打ち掛け（組裏つき）
P27 **18** 花嫁の白無垢（組裏つき）
型紙／原寸❽❽面

P18 **12** 太夫の安倍晴二部式
P23・27 **17・18** 花嫁の安倍晴二部式

上半身（組裏つき）
型紙／55ページ
下半身（組裏つき）
型紙／なし

17色打ち掛けの材料　18白無垢の作り方は17色打ち掛けと同じ

材料　白地布35cm幅×65cm、白縮緬30cm×29cm、白縮緬地（袖）21×37cm

＊布を裁断する前に、写した線の内側に薄くのり（ボンド）を塗っておくとほつれにくい。

1 身頃の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは、左身頃に倒す。

2 袖身頃と衿を中表に合わせて縫う。縫いしろは片側に倒す。

3 袖口に口布（3cm×9cm）を中表に合わせて縫う。開き止まりに切り込みを入れる。

4 袖と裏袖を中表に合わせ、振りの部分（袖つけ止まりから下）を前後別々に縫う。

5 衿を平らに広げ、袖山から中表に2つ折り。前後の表と裏の間に後ろ袖を挟む形（右図）。

6 袖下一続に開き止まりまでを4枚一緒に縫う（口布を縫いこまないよう注意）。

7 カーブに切り込みを入れて表に返す。口布を裏袖上に返し、端を裏布のみをすくってまつり縫い。

8 身頃と裏袖を中表に合わせ、袖つけ位置を縫う。縫いしろは袖側に倒す。

9 前後身頃の裾を中表に合わせて縫う。縫いしろは前身頃側に倒す。

10 身ハつりの縫いしろは開く。

11 裏袖を衿にかかる縫いしろにとめつける。

12 身頃の裾に裾裏を中表に合わせる。衿の裾カーブには、切り込みを入れ、裾裏のカーブ部分は少しいせ込んでおける。裾端と裾を縫う。

13 裾の縫いしろを表側に倒す。8cm×23cmの裾を縫いしろに縫いとめ、表身ごろに返す。

14 裏身頃の後ろ中心を表と同様に縫う。

15 身頃に袖を外表に合わせ、脇の縫いしろを裏に折り、前後の身ハつりと袖つけ位置にまつりつける。

16 裾裏の上端を裏に折り、裏身頃の下前（衿の端）に裏布のみをすくって縫い合わす。

17 表と裏の衿ぐりを外表に合わせて仮止めし、切り込みを入れる。

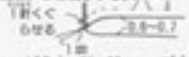
18 衿を外表に半分に折り、1辺を1.1cmに中表に合わせて縫う。

19 衿を図のとおりに外表に折る。

20 衿端を裏に折り、衿ぐりにまつる。

21 衿端から0.3cmのところに裾裏まで通して仮止めをする。

22 衿の先に紐を縫いつけ、衿を通し、ひと結びする。



12、17、18女雛物、上半身（組裏つき）の材料と作り方

材料　白縮緬布35cm幅×90cm、白縮緬地15cm×45cm、白絹テープ1.5cm×70cm

1 表と裏の身頃の後ろ中心をそれぞれ中表に合わせて縫う。縫いしろは左身頃に倒す。

2 1の表身頃と裏身頃を中表に合わせ袖縫一続、後ろ袖一続を、袖つけ位置を残して縫う。

3 衿を表に返し、毛抜き合わせに折る。

4 袖口に口布（3cm×8cm）を中表に合わせて縫う。開き止まりに切り込みを入れる。打ち掛けの4〜7を参照して袖を作る。

5 表身頃と裏身頃の袖つけ位置を外表に合わせて仮止めする。

6 衿に表袖を中表に合わせ、袖つけ位置を縫う。縫いしろは袖側に倒す。

7 裏袖の袖つけ位置の縫いしろを裏に折り、衿にまつり縫いをする。

8 表裏身頃の衿ぐりを外表に合わせて仮止めし、切り込みを入れる。

9 衿に半分に折った衿の1辺を表に中表に合わせて縫う。

10 衿を折り、衿裏を裏に折って袋の形にまつり縫いをする。

11 袖口を3つ折り（後が足のときは0.5カットして外に2つ折り）して縫い、衿の裏にまつりとめる。

12 絹テープ30cmを後ろ身頃に縫いとめる。

12、17、18女雛物二部式　下半身の材料と作り方

材料　表下半身　24cm幅×20cm、裏下半身　19cm幅×23cm、比翼表下半身　18cm×20cm、比翼裏下半身　18cm×23cmの4枚を縫子で縫う。

1 表下半身のタックを縫う。右上図参照。タックの中央で中表に折って縫う。縫いしろは右図のとおりに倒す。

2 左を表下半身と中表に合わせ、前端と裾を縫う。前端の裾で裏を0.5cm下にさげて縫う。

3 左を表に返し、裾に星止めをする。

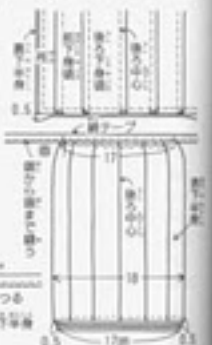
4 下前の表と裏を中表に合わせ3と同様にして縫う。表に返し星止め。

5 表の上に左を重ねる。裾で0.2cmずらし、左右で0.5cmずつ内側に置く。

6 表の上端を4枚一緒に縫う。少しカーブをいれていせ込む。上端を平らにカット。

7 絹テープの中央に左の上端を合わせて縫う。

8 絹テープを裏に折ってまつる。



P18 **12** 太太
P23 **17** 兒童-男の子向け
P27 **18** 兒童-女の子向け
半襦袢（長襦袢なし・袴の場つき）
縫取げ・半纏
型紙／切り抜き線 **1**
（原寸は裏表紙の巻末袋）

P18 **12** 太太
P23 **17** 兒童-男の子向け
P27 **18** 兒童-女の子向け
羽・袴之羽・羽織袖め・羽織ヒア
型紙／なし

P18の17太夫の材料はP17
作り方は共通
袖口布
袖
身頃
衿
衿先
衿先
衿先

P23 17 花嫁・色打ち掛け **角隠し・綿帽子・**
P27 18 花嫁・白無垢の **抜き衿・懐剣**
型紙／66ページ（詳細は巻末の表参照）

P18 12
P23 17 **畑物・神の畑付け**
P27 18

角隠しの材料

白絹地 5.3cm幅×25cm
白綿薄地（裏） 4.8cm幅×25cm
薄い紙 4cm幅×24cm

1 表（白）と裏（赤）を中表に合わせて縫う。
2 Tの縫いしろを赤布側に倒し、表に返す。両脇にきせが出る。
3 紙に型紙の線を薄くなぞし、外表の折り目をしっかりつける。
4 左の中に型の紙を入れ、両端を内側に折り込む。
5 紙に合わせて、角にも折り目をつける（裏布も一緒）。
6 中心線の上部を半分に折り、下まつまみ縫い。
7 裏に縫い目を挟んで表のところに1針縫いとめる。

綿帽子の材料

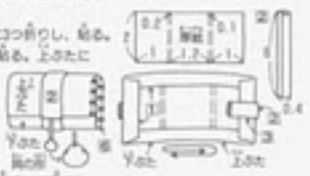
白絹地 14cm幅×22cm
白綿薄地（裏） 14cm幅×22cm

1 前布の表と裏を中表に合わせて下側を縫う。
2 Tを表に返す。上側の表と裏を仮止めする。
3 後ろ布の後ろ中心を中表に合わせて縫う。縫いしろは開く。
4 後ろ裏布も③と同様に縫う。
5 表と裏の後ろ布に切り込みを入れる。
6 前布をはさみ、返し口を残して縫う。
7 表に返し、返し口を縫う。

抜き衿の材料

金襴地 4.2cm×6cm、衿縫い分厚紙 2cm×3.5cm（白無垢地はすべて白）

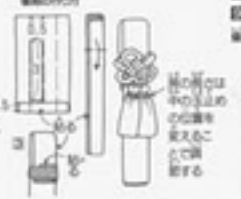
1 衿芯の寸法に折り線をつけた厚紙に帯地（3cm×5cm）を貼る。
2 帯地（3cm×6cmを外表に二つ折りし、貼る。
3 Tの表に②を図のように貼る。上のたになる方に②を折り込む。
4 直径1cmの赤綿球の中に紐を入れ、まわりを縫い絞る。ボタン付け糸で下のたに縫いとめる。
5 下のた上のたの順に3つ折りして貼る。
6 飾紐をボタン付け糸で千鳥がけする。



懐剣の材料

金襴地2×5cm 厚紙0.5×3cm
糸房付き紐0.20m（白無垢は全て白）

1 帯地に2cm×5cmの中に厚紙を入れて4つ折りし、縁をボンドで貼る。
2 上側の厚紙の入っていない部分を折って貼る。
3 ②をひもで3～4回巻き、ひも先を貼る。
4 ひもで蝶結びを作り（右図参照）、結果に貼る。（普通の蝶結びでも良い）



畑物の着つけ方

1 P91を参照し、半襟、袖、裾、裾除けを縫える。
2 上半身を半分にそわせて重ね、前を合わせる。
3 ひもを後ろで結ぶ。
4 下半身を裾除けと同様に引き上げて重ねる。前を折り、後ろで結ぶ。

帯を結ぶ

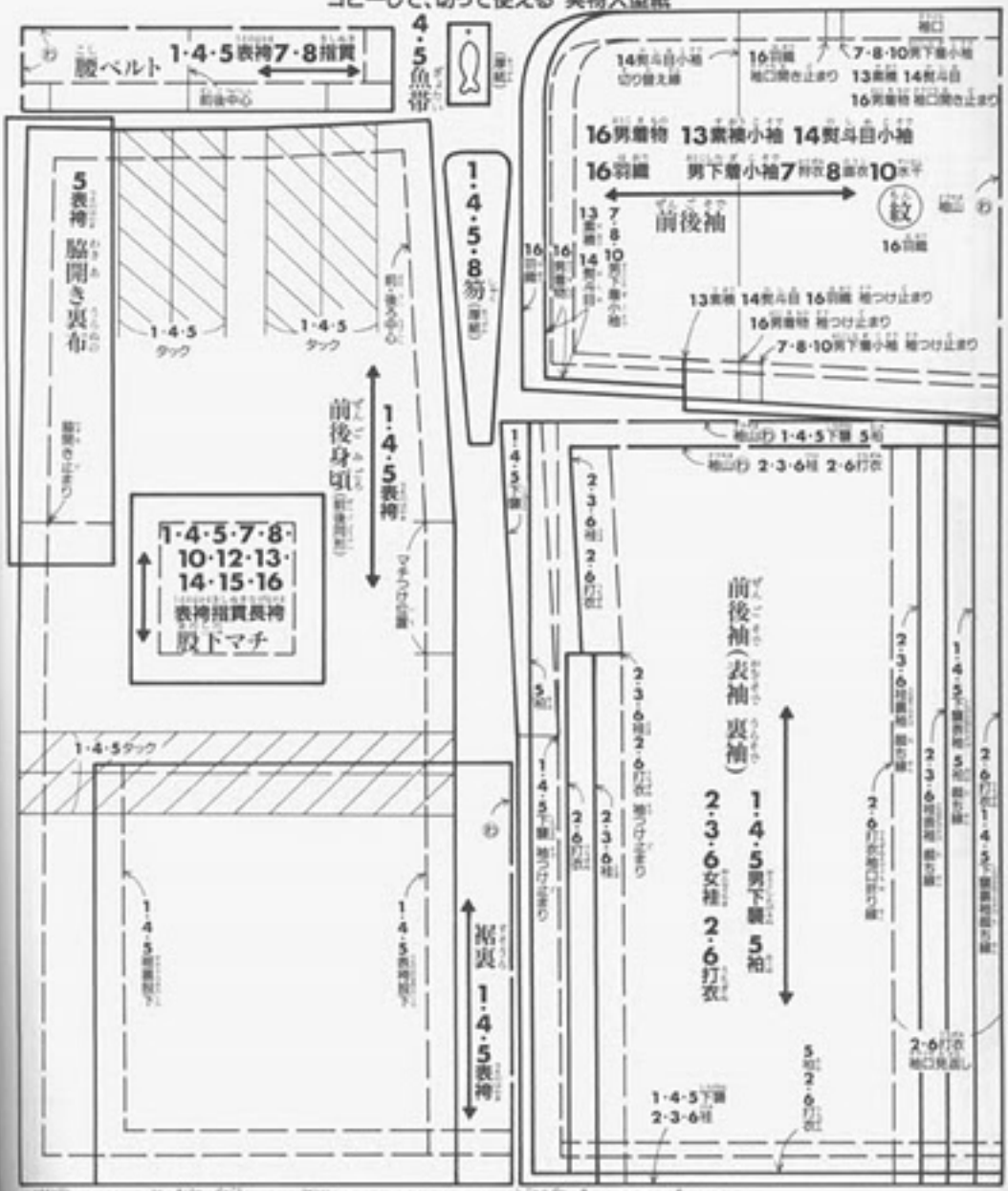
1 帯の結び目に帯締めと帯揚げを通す。
2 前を背中に向長い、帯揚げで帯の前に仮結びする。
3 後ろ右側に帯締めを当て、ひもを上に出す。
4 帯揚を広げながら前に2巻きする。
5 ひもを後ろで交差させて前で結び、帯の中へ隠す。
6 帯締め、帯締め、かかえ太鼓を結び、羽の形を整える。

神の着つけ方

1 神は長かすに半衿、上半身を重ねる。（着物下）—③
2 下半身を外表に半分に折り、腰に巻きつける。
3 神の後ろ紐を左右から内側に折り込んでおく。
4 前せかけの紐を当て③の紐を重ねる。
5 神の後ろに少しタックを取る。
6 紐のひもで⑤を押えて結ぶ。右下のひもを巻いて羽を作り左上のひもで中央を巻きとめる。
7 帯をはかせる。前ひもを後ろ衿の上で交差させて前にまわす。左のひもが上になるよう重ね、後ろで結ぶ。
8 腰板のクリップをひもに差し込む。
9 後ろひもを前ひもにかけ右と同様に結ぶ。

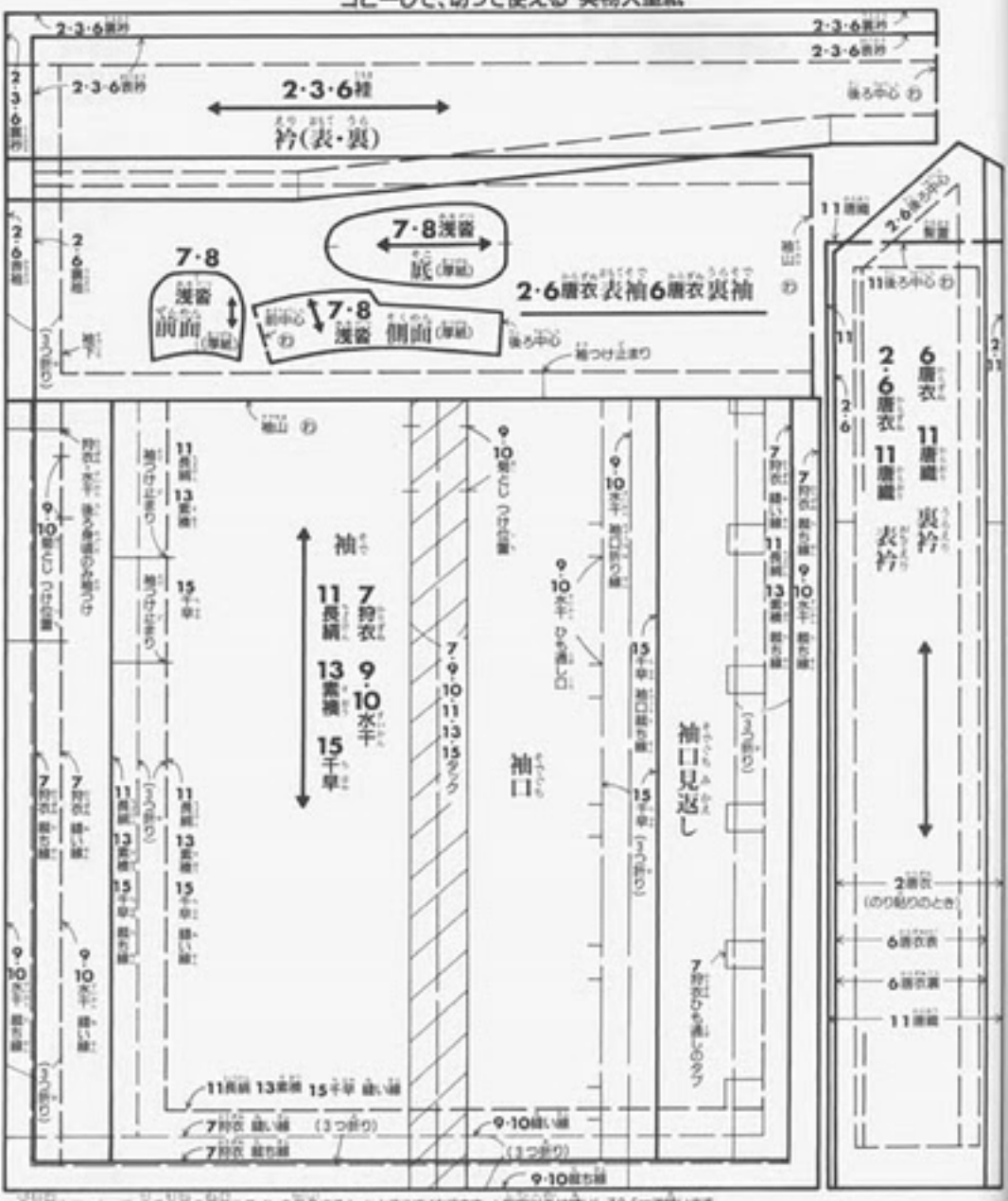
1 ひもをくずれないように左側にしている右下に重ねる
2 ①を折り返す
3 下半分にひもを輪の中に通す
4 ひもを上げる
5 ③を下にあてる

コピーして、切って使える 実物大型紙

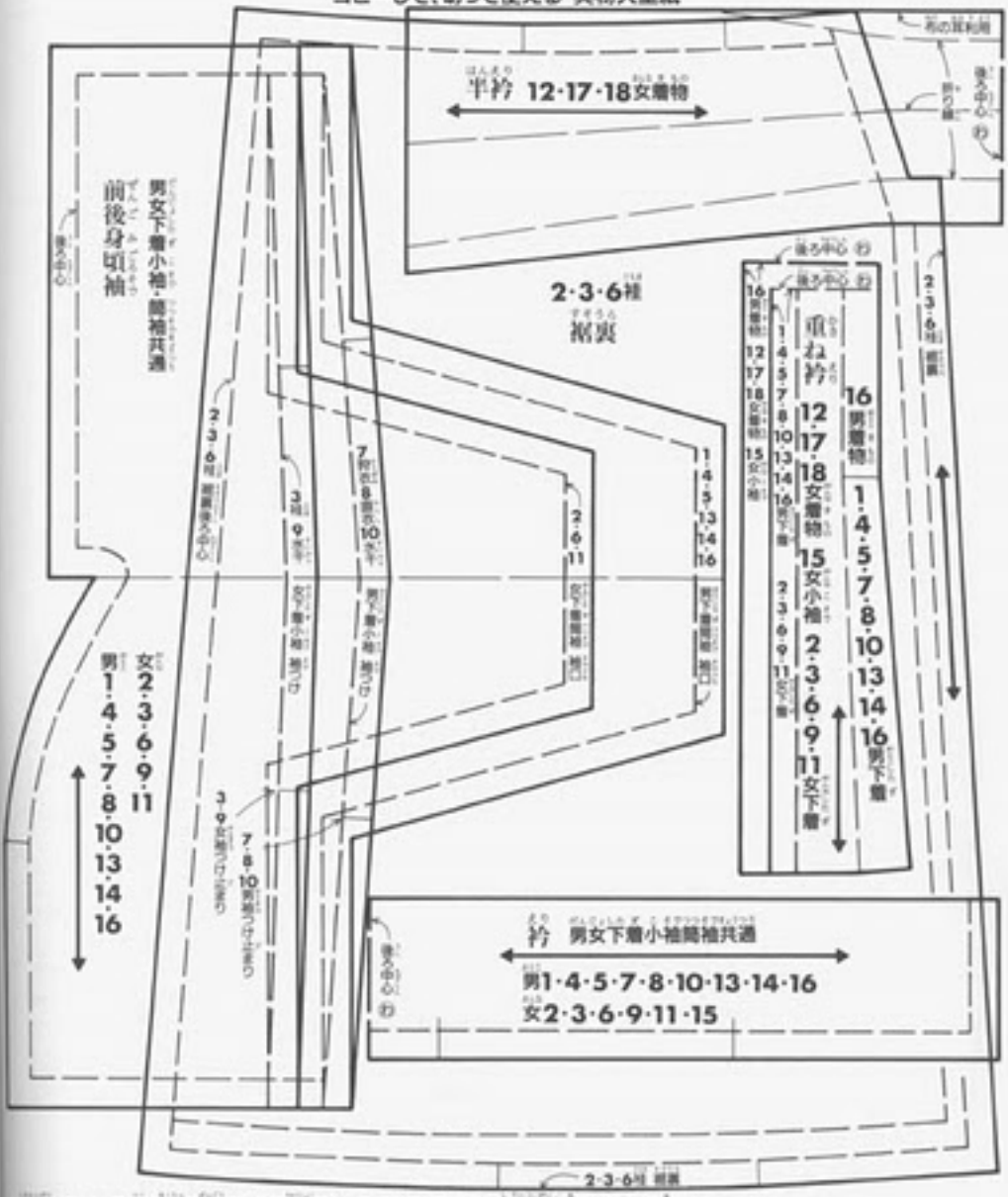


●鉛筆やマーカーで、作る作品の番号やラインを着色すると、わかりやすくなります。●指定以外は縫いしろ0.5cmで縫います。

コピーして、切って使える 実物大型紙

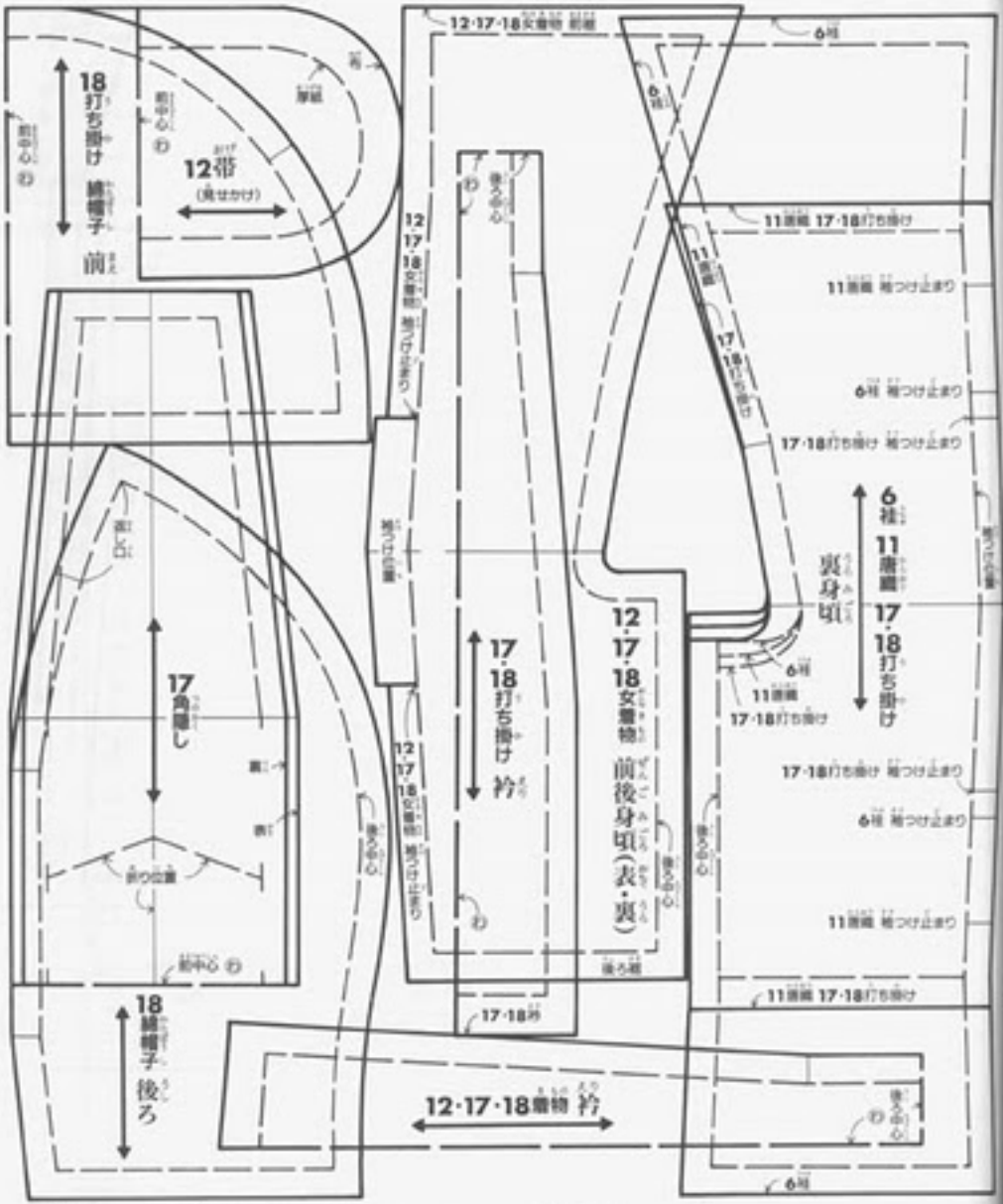


コピーして、切って使える 実物大型紙

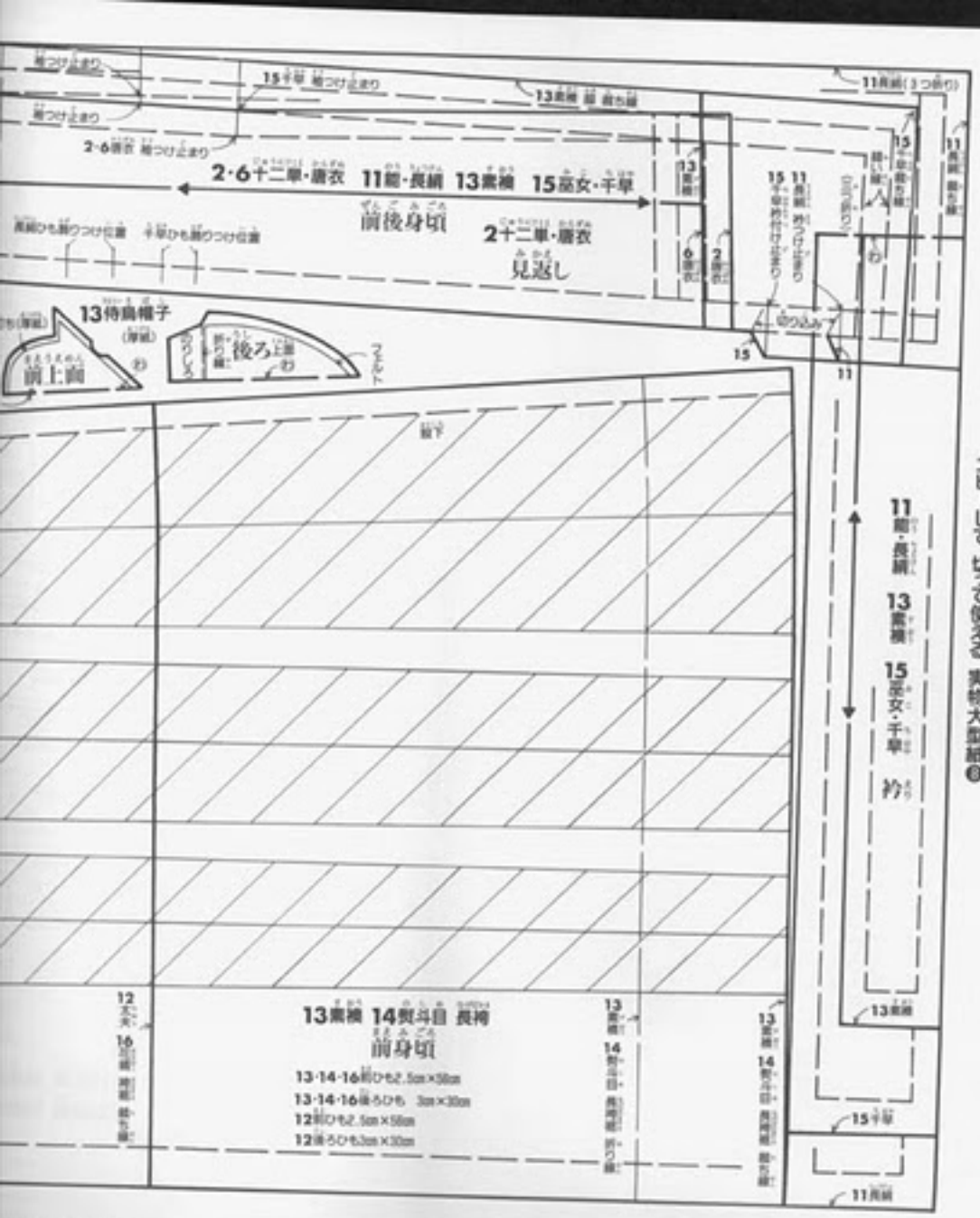


●衣服やマーカーで、作る作品の番号やラインを着色すると、わかりやすくなります。●指定以外は縫いしろ0.5cmで縫います。

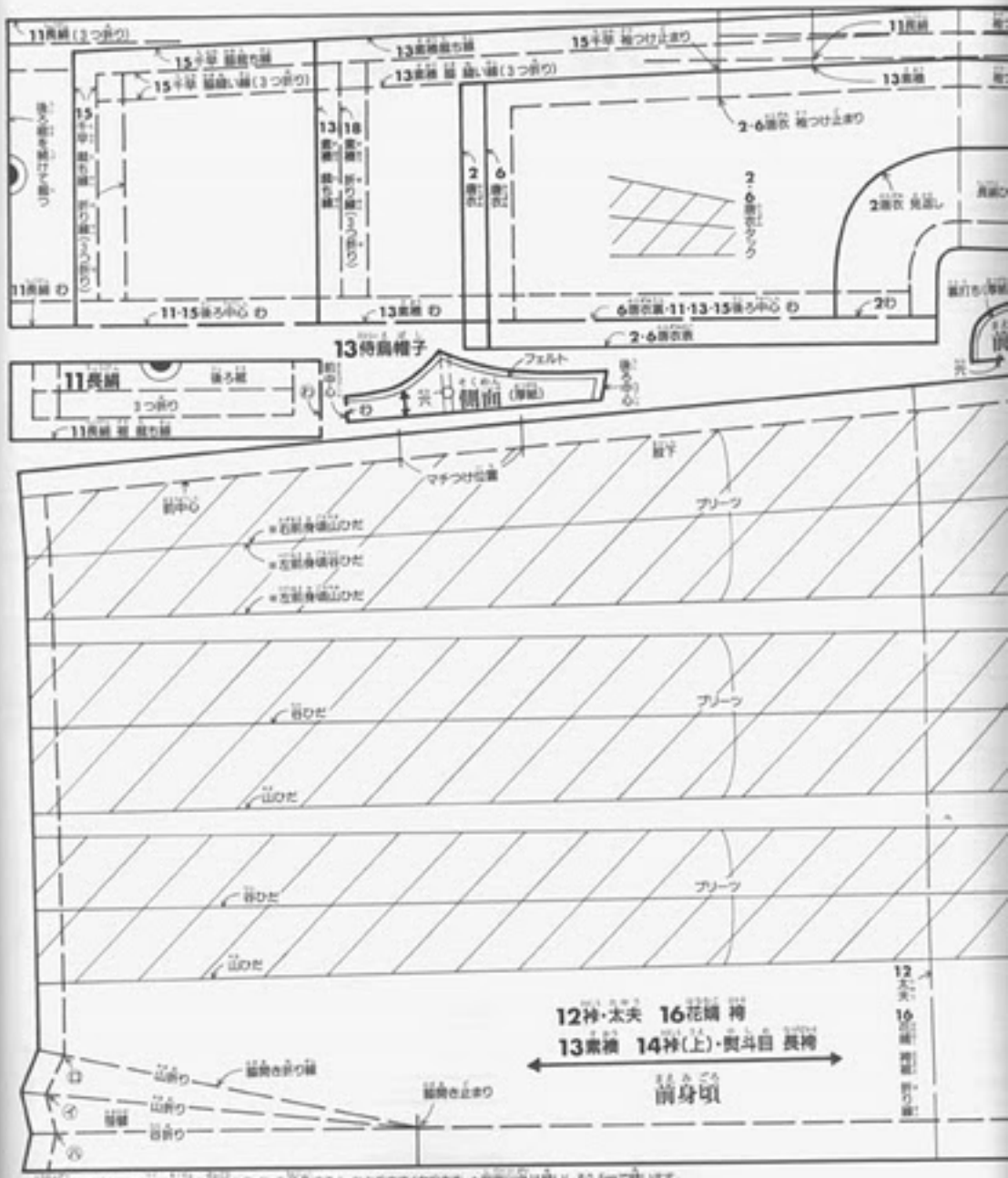
コピーして、切って使える 実物大型紙



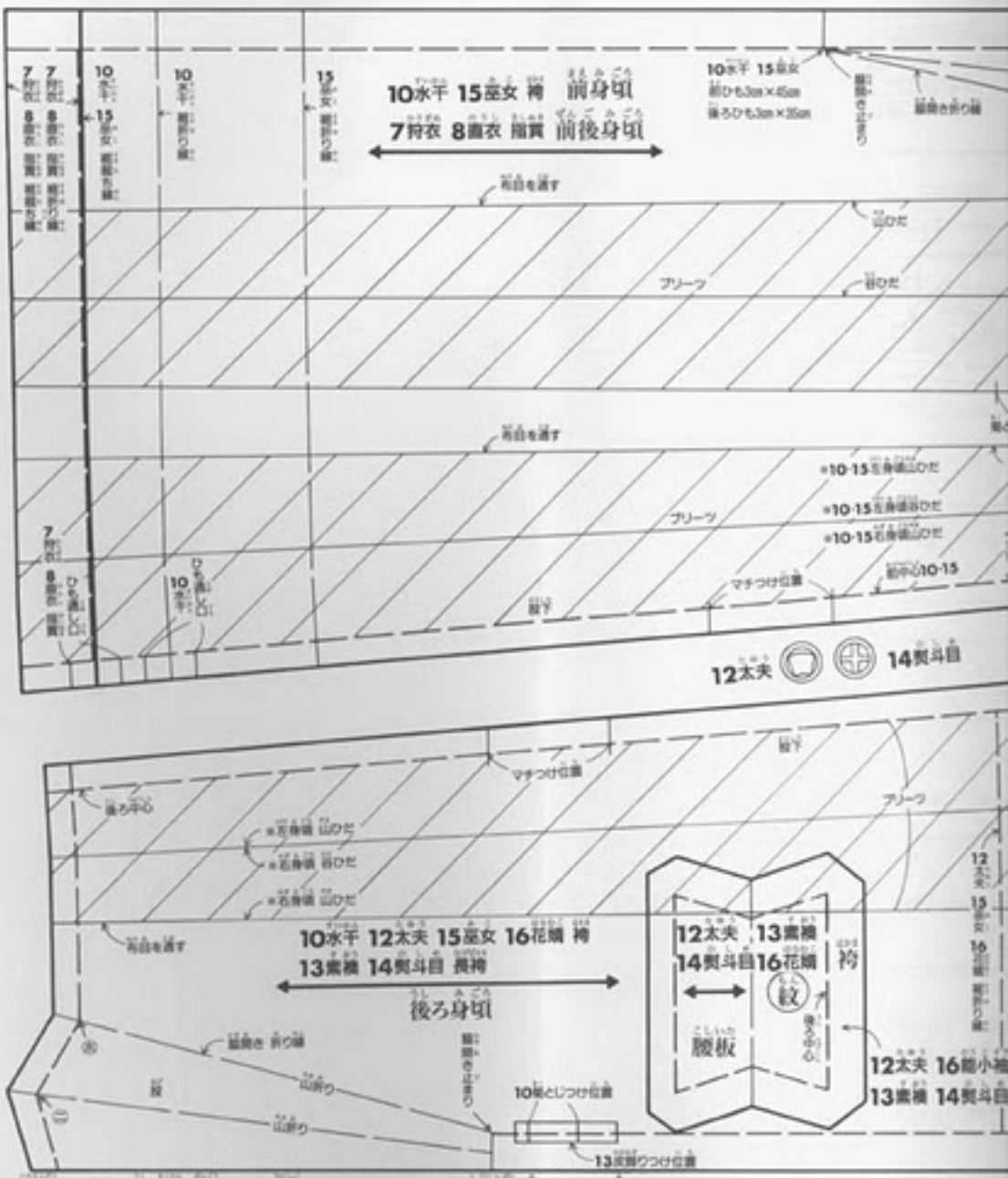
★色鉛筆やマーカーで、作る作品の番号やラインを着色すると、わかりやすくなります。★指定以外は縫い代0.5cmで縫います。



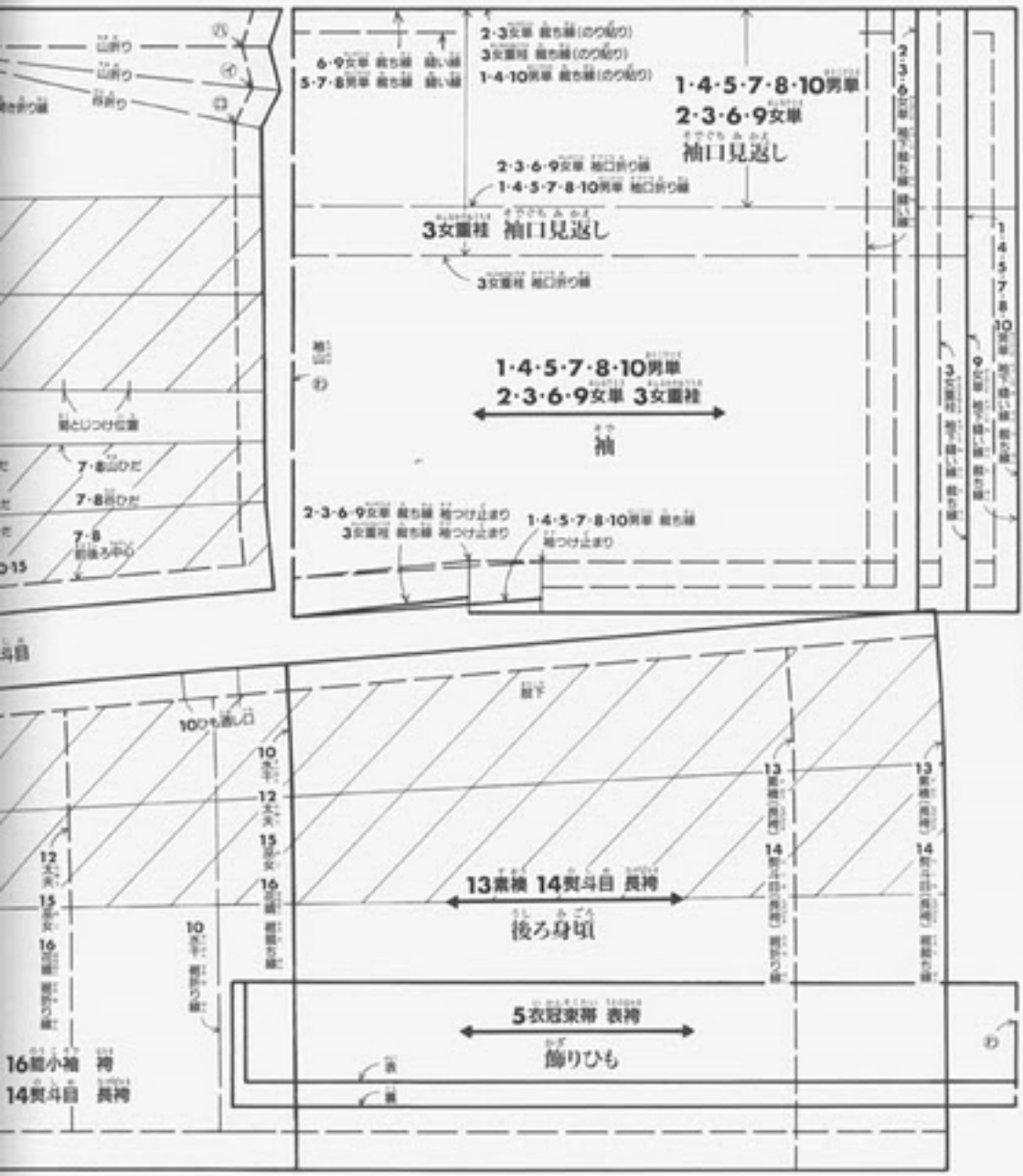
コピーして、切って使える 実物大型紙⑧

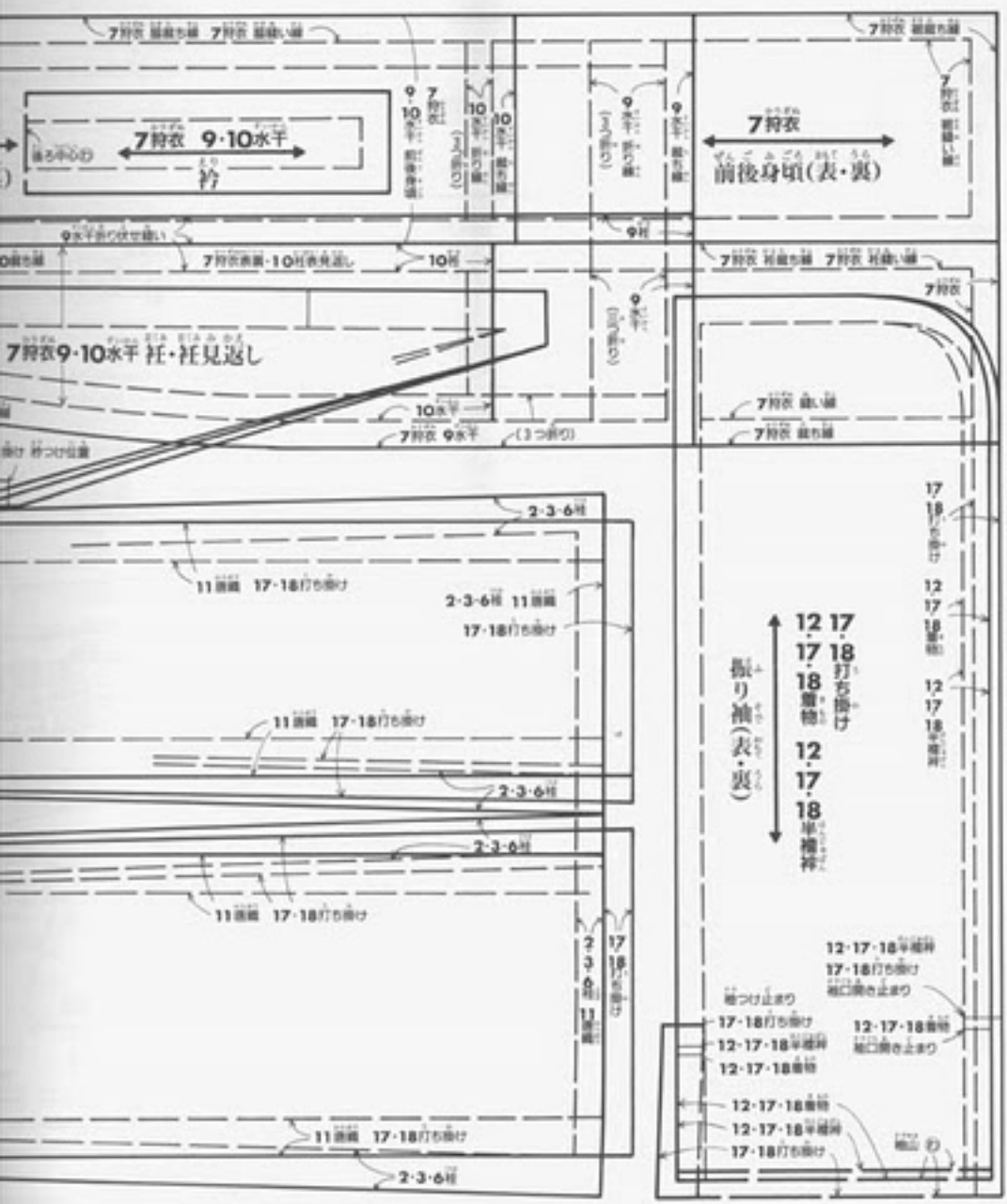


●色鉛筆やマーカーで、作る作品の番号やラインを着色すると、わかりやすくなります。●指定以外は縫いしろ0.5cmで縫います。

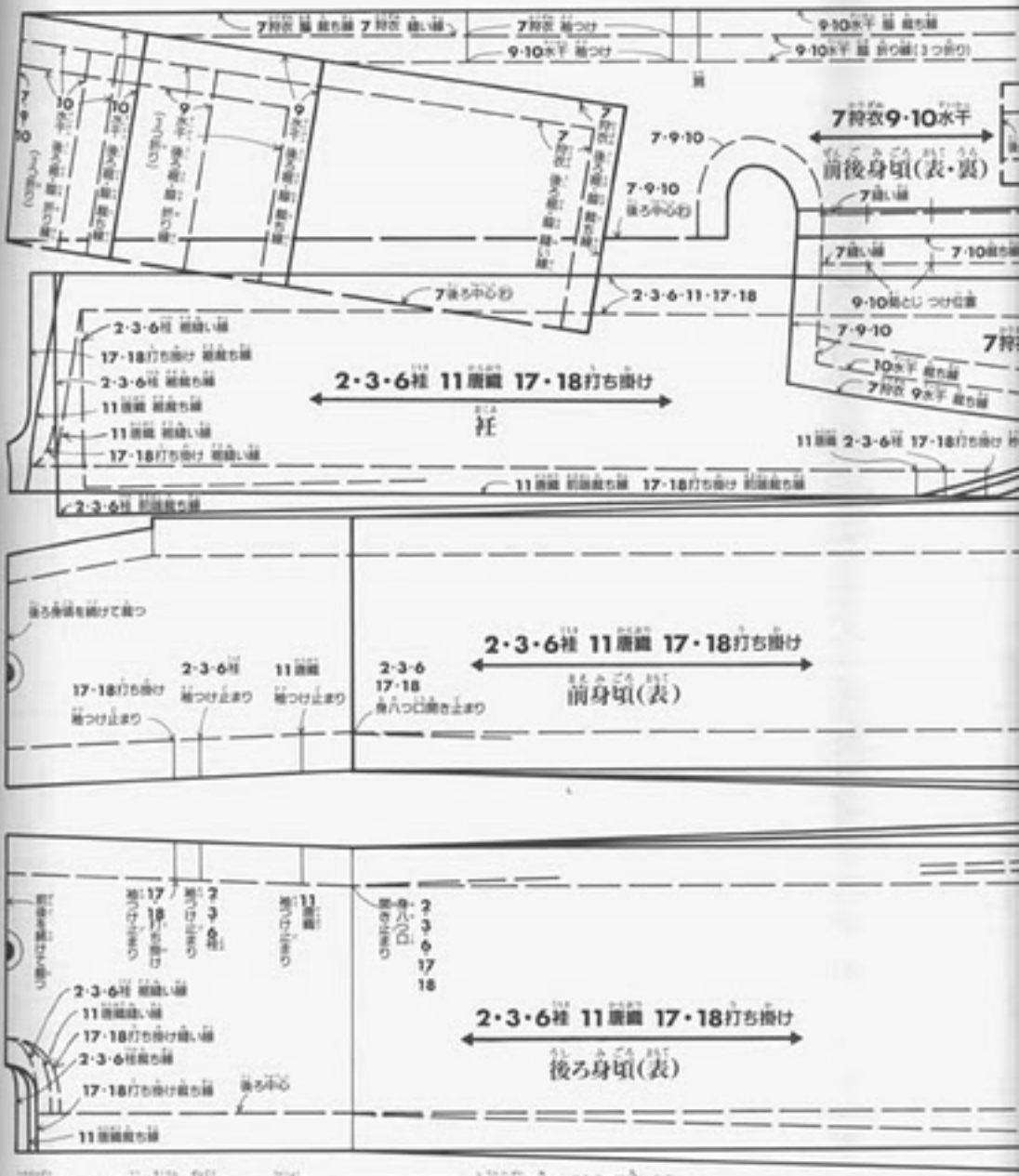


★色鉛筆やマーカーで、作る作品の番号やラインを着色すると、わかりやすくなります。★指定以外は縫いしろ0.5cmで縫います。


山折り
谷折り
袖折り
6・9女単 裁ち線 縫い線
5・7・8男単 裁ち線 縫い線
2・3女単 裁ち線(のり貼り)
3女重袴 裁ち線(のり貼り)
1・4・10男単 裁ち線(のり貼り)
1・4・5・7・8・10男単
2・3・6・9女単
袖口見返し
2・3・6・9女単 袖口折り線
1・4・5・7・8・10男単 袖口折り線
3女重袴 袖口見返し
3女重袴 袖口折り線
袖口
1・4・5・7・8・10男単
2・3・6・9女単 3女重袴
袖
2・3・6・9女単 裁ち線 袖つけ止まり
3女重袴 裁ち線 袖つけ止まり
1・4・5・7・8・10男単 裁ち線 袖つけ止まり
袖とじつけ位置
7・8山ひだ
7・8谷ひだ
7・8 前後ろ中心
10cm
10cm
10cm
13裏袴(表)
14貝斗目(表)
13裏袴(裏)
14貝斗目(裏)
13裏袴 14貝斗目 長袴
後ろ身頃
5衣冠束帯 表袴
飾りひも
16縫小袖 袴
14貝斗目 長袴

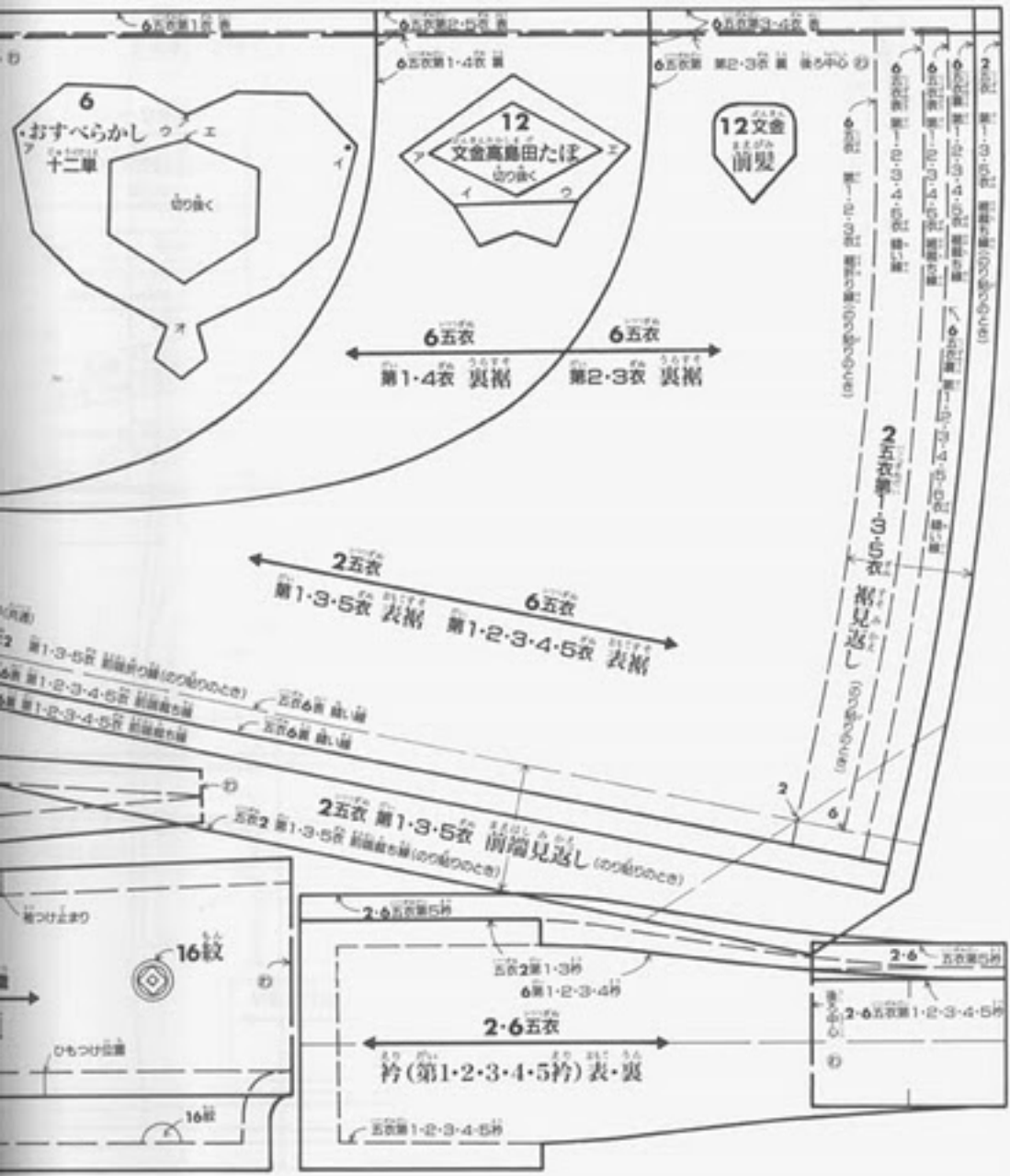


コピーして、切って使える 実物大型紙❸



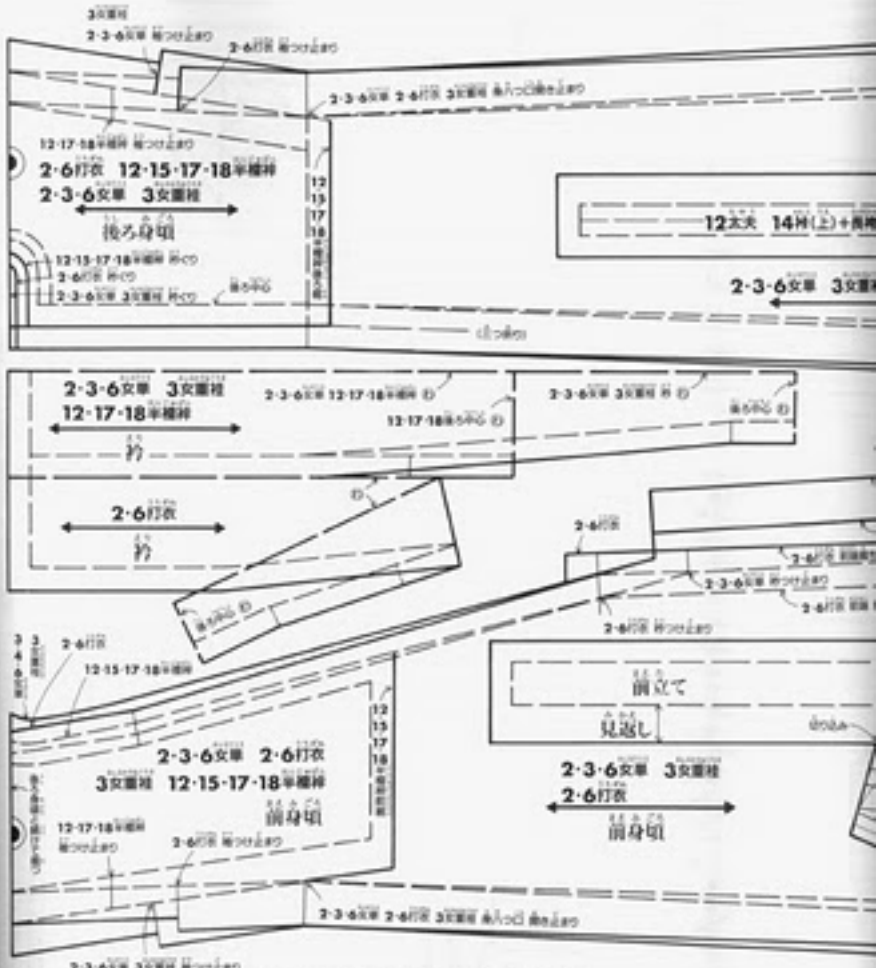
●色鉛筆やマーカーで、作る作品の番号やラインを着色すると、わかりやすくなります。●指定以外は縫いしろ0.5cmで縫います。

★色鉛筆やマーカーで、作る作品の番号やラインを着色すると、わかりやすくなります。★指定以外は縫い しろ0.5cmで縫います。

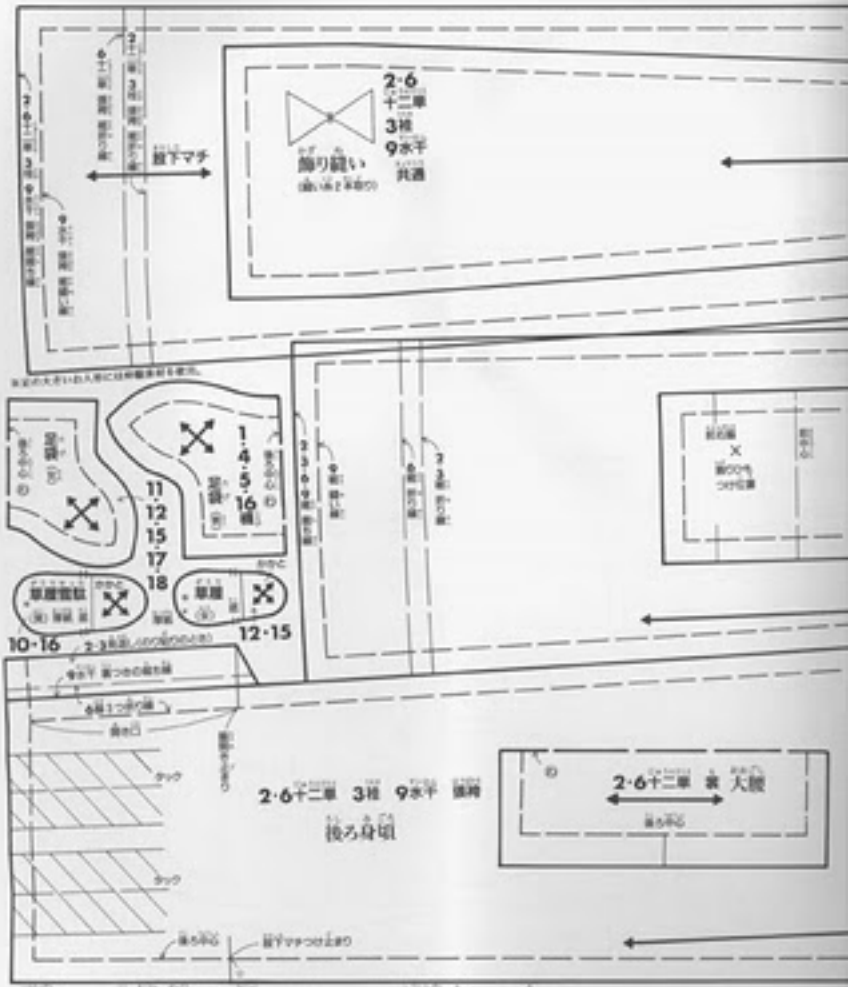


コピーして、切って使える 実物大型紙❸

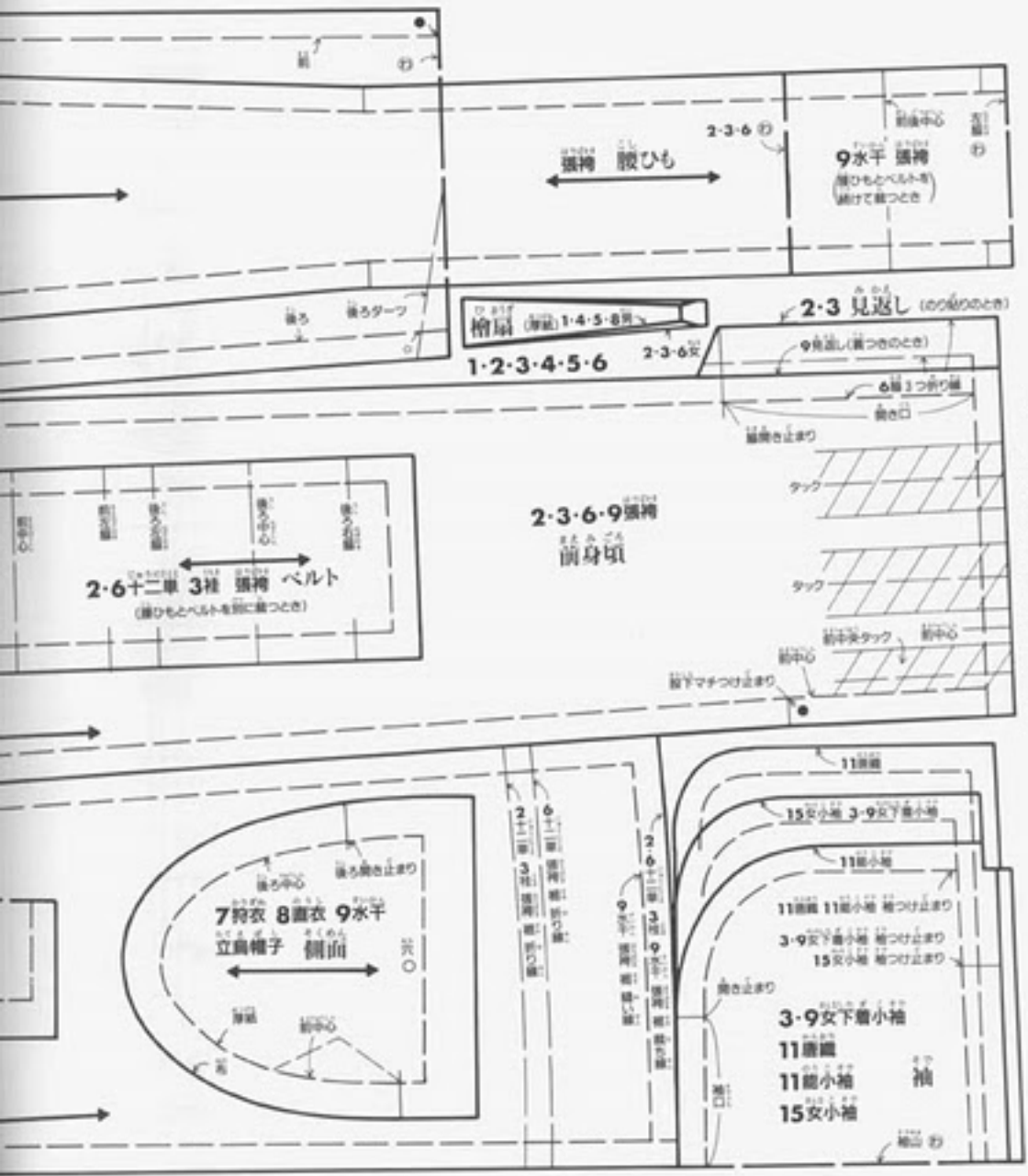
2・6打衣
2・3・6女単 3女重衽
3女重衽 2・6打衣 後ろ身頃
2・6打衣
2・3・6女単 3女重衽
紋
12大夫 14衿(上)+長袴
12・14衿
前後身頃
3つ折り
2・6打衣
2・3・6女単 3女重衽

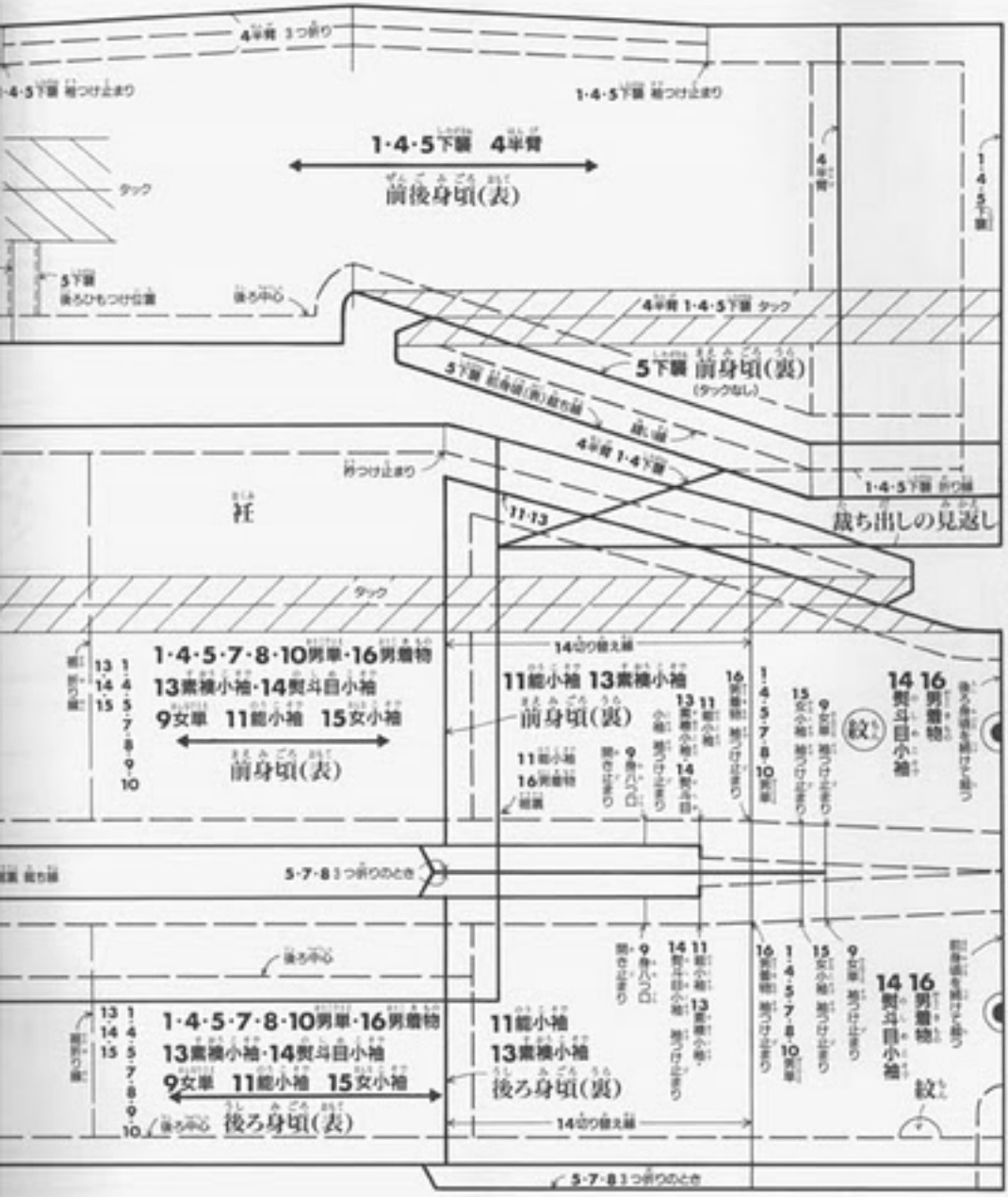


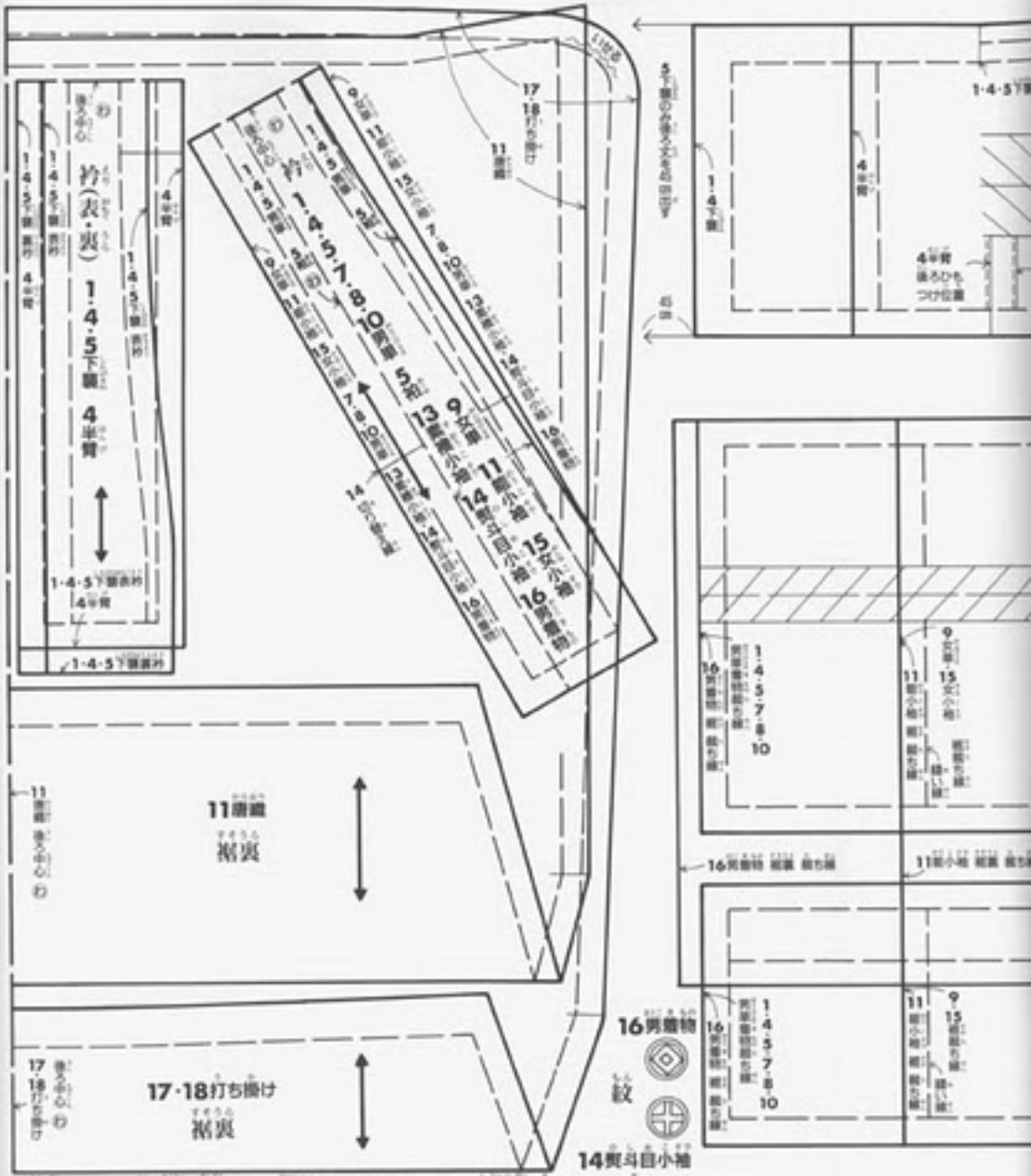
●印は縫やマーカーで、作る作品の番号やラインを書き写すと、わかりやすくなります。●指定以外は糸しるし3cmで抜います。



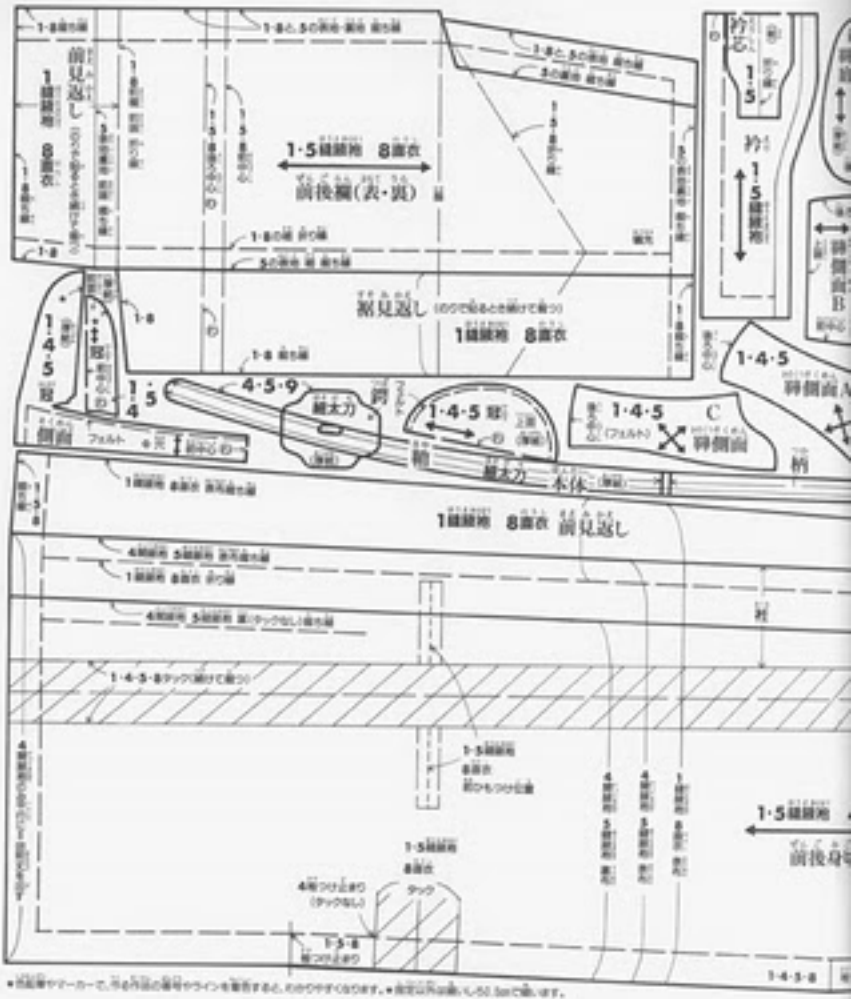
★型紙やマーカーで、作る作品の番号やラインを書き写すと、わかりやすくなります。★縫い代は特に記入がない場合、1cmで縫います。


前
わ
2・3・6 わ
張袴 腰ひも
9水平 張袴
(腰ひもとベルトを続けて裁つとき)
後ろ
後ろダーツ
2・3・6女
1・2・3・4・5・6
2・3 見返し (のり裁のとき)
9見返し (裁つきのとき)
6縫3つ折り線
2・6十二単 3袖 張袴 ベルト
(腰ひもとベルトを別に裁つとき)
2・3・6・9張袴
前身頃
タック
前中心
股下マチつけ止まり
7狩衣 8直衣 9水平
立烏帽子 側山
後ろ中心
後ろ脇止まり
脇線
袖中心
袖口
11振袖
15女小袖 3・9女下着小袖
11留袖小袖
11留袖 11留袖小袖 袖つけ止まり
3・9女下着小袖 袖つけ止まり
15女小袖 袖つけ止まり
脇止まり
3・9女下着小袖
11振袖
11留袖小袖
15女小袖
袖


4半臂 3つ折り
1・4・5下襲 裾つけ止まり
1・4・5下襲 裾つけ止まり
1・4・5下襲 4半臂
前後身頃(表)
タック
4半臂
1・4・5下襲
5下襲
後ろひもつけ位置
後ろ中心
4半臂 1・4・5下襲 タック
5下襲 前身頃(裏)
(タックなし)
5下襲 前身頃(表)裁ち線
脇線
4半臂 1・4下襲
裾つけ止まり
1・4・5下襲 折り線
衽
11・13
裁ち出しの見返し
タック
1・4・5・7・8・10男単・16男着物
13素襖小袖・14賢斗目小袖
9女単 11能小袖 15女小袖
前身頃(表)
14切り伏せ線
11能小袖 13素襖小袖
前身頃(裏)
11能小袖
16男着物
裾線
9 身八つ口 開きとまり
13 素襖小袖
11 能小袖
14 賢斗目小袖
16 男着物
裾つけ止まり
1・4・5・7・8・10男単
15 女小袖
9女単
14 賢斗目小袖
16 男着物
紋
後ろ中心を縫わずに縫う
裁ち線
5・7・8 3つ折りのとき
後ろ中心
1・4・5・7・8・10男単・16男着物
13素襖小袖・14賢斗目小袖
9女単 11能小袖 15女小袖
後ろ身頃(表)
11能小袖
13素襖小袖
後ろ身頃(裏)
14切り伏せ線
5・7・8 3つ折りのとき



*色記号やマーカーで、作る作品の番号やラインを着色すると、わかりやすくなります。★指定以外は縫いしろ0.5cmで縫います。



●作図後マーカーで、引き方法の番号やラインを強調すると、わかりやすくなります。●指定以外は縫しろ0.5cmで縫います。

コピーして、
切って使える
巻末実物大型紙
❶
袖(表・裏)
1・5縫版袖
4縫版袖
8直衣
袖口
1・4・5・8裁ち切り線
1・4・5・8縫い代
1・4・5・8後ろ中心
1・5縫版袖
格袋芯
(厚紙)
1・5縫版袖8直衣
格袋
後身頃(表・裏)
1・4・5・8縫つけ止まり

身近でお気にいりのお人形こそ、主役

おひな様(主)

従前りに収録の髪型(男子・姫四・女子は34ページに掲載されています。

まず男びな・女びなを作って、
戦士飾りをのこしましょう。
1体ずつに思いの詰まった段飾りが、
いつの日か完成することを夢見て…。
(一例の表示は各作品の説明です。
自分に適んと作ってください。

男びな

着付け順／(女下着用和服)(裏なし)＋袴帯5(裏つき)＋表袴5(裏つき)＋下着5(裏つき)＋袴帯5＋袴帯5(裏つき)＋袴帯5(裏つき)＋袴帯5(裏つき)＋袴帯5＋袴帯5＋袴帯5